【研究主題】学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

９　国語科

(1)　学習内容の関連

国語科において思考力・判断力・表現力を育成する学習内容の関連は，「話す・聞く能力」，「書く能力」，「読む能力」を育成する指導事項の関連と捉える。それぞれの能力は，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の単元において，単元を貫く言語活動を通して指導された指導事項が身に付くことで育成される。そこで，指導事項を関連付けながら系統性や段階性を踏まえ，重点化を図ることで，意図的・計画的な言語能力の育成が可能になる。したがって，いつ，どの単元間や領域間又は科目間で，どのような言語活動を通して，どの指導事項を関連させて指導するのかを，教師が年間を見通して工夫することが大切である。

図10は，小学校第４学年における文学的な文章を教材としたときの学習内容の関連を，学習指導要領「読むこと」(1) ウの指導事項で説明したものである。「文学的文章の解釈」に関する指導事項には「叙述を基に想像して読む」際の対象が複数盛り込まれている。

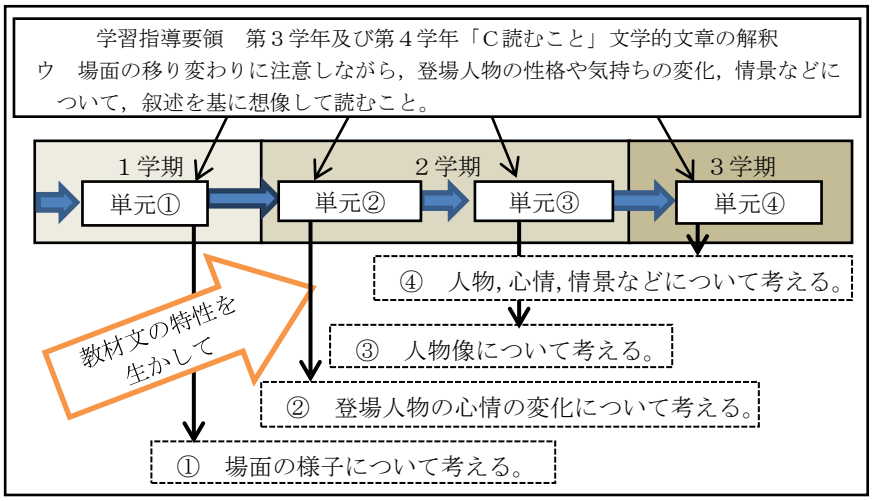


図 10　文学的文章を扱った単元間における学習内容の関連

例えば，単元①では，音読を通して「場面の様子」について考えさせる。単元②では，感想交流会を通して場面の様子を踏まえて登場人物の「心情の変化」について考えさせる。単元③では，それらの力を活用して登場人物の「人物像」について考え紹介させる。そして，単元④では，それまでの積み重ねを基に，「人物」，「心情」に加えて「情景」についても考えさせ，読書発表会を行う。つまり，単元①から③においては，思考・判断する対象を「場面の様子→心情の変化→人物像」と移行させ，単元④で，それらを総合的に扱うよう配列することで，学習内容の関連を踏まえながら，「読む能力」を身に付けさせることができる。

このように，教材文の特性や言語活動との関わりに基づいて，指導事項に含まれる要素を分析し，系統的・段階的に位置付けることで，習得・活用すべき知識・技能や単元間における学習内容の関連が明確になり，継続的な思考力・判断力・表現力の育成が可能となる。なお，学習内容の関連については，領域間や科目間で関連付けた指導も考えられる。

(2)　学習内容の関連を踏まえた指導

ア　知識・技能の活用を図る学習活動

教材文を使って「読む能力」の育成を図った後，その教材文をモデルとした「書く能力」の育成を図る単元を構想することがある。その際，指導事項の関連を踏まえることで，習得した知識・技能を，相手，目的や意図，多様な場面や状況などに応じて活用する活動を効果的に設定することができる。これにより，国語科の最も基本的な目標であり，連続的かつ同時的に機能する，適切に表現する能力と正確に理解する能力を育成することができると考える。

表２は，中学校第１学年における「読むこと」と「書くこと」の複合単元を指導する際に，習得した知識・技能をどのように活用していくかをまとめたものである。

表２　説明的文章を扱った複合単元における，習得した知識・技能の活用

単元名	教材名	身に付けさせたい指導事項の関連	
		「読むこと」の領域	「書くこと」の領域
報告文を書こう（５月）	ダイコンは大きな根？	(1)イ　文章の解釈 中心的な部分と付加的な部分，事実と意見を読み分ける。	(1)ア　課題設定や取材 課題を決め，材料を集め，考えをまとめる。
段落を意識した条件作文を書こう（６月）	ちょっと立ち止まって	(1)イ　文章の解釈 目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする。	(1)イ　構成 段落の役割を考えて文章を構成する。
図表を添えて記録文を書こう（10 月）	シカの「落穂拾い」	(1)エ　自分の考えの形成 文章の展開や構成，表現の特徴について，自分の考えをもつ。	(1)ウ　記述 自分の考えを根拠を明確にして書く。

例えば，５月の単元「報告文を書こう」では，まず，「問い」と「答え」が明確な説明文教材を使い，事実や意見を整理する方法を学ぶ。次に，習得したそれらの力を使い，報告文を書くという流れで指導事項を関連させることで課題設定や取材の力を定着させる。同様に６月，10 月にも筆者の構成や記述の仕方を学んだ後，その知識や技能を自身の作品づくりに活用させる（**表２**➡方向）。さらに，５月に習得した課題設定や取材に関する知識・技能は，６月の条件作文を書くという単元において，最低限必要な力となり，６月に習得した構成に関する知識・技能は，10 月の記録文を書く際に役立つ力となる（**表２**⬇方向）。

イ　見通し・振り返り学習活動

習得と活用を繰り返しながら指導事項を身に付けていく単元の指導過程において，見通し・振り返りを行う場面について，**図 11** のような単元を貫く言語活動のモデルで説明する。

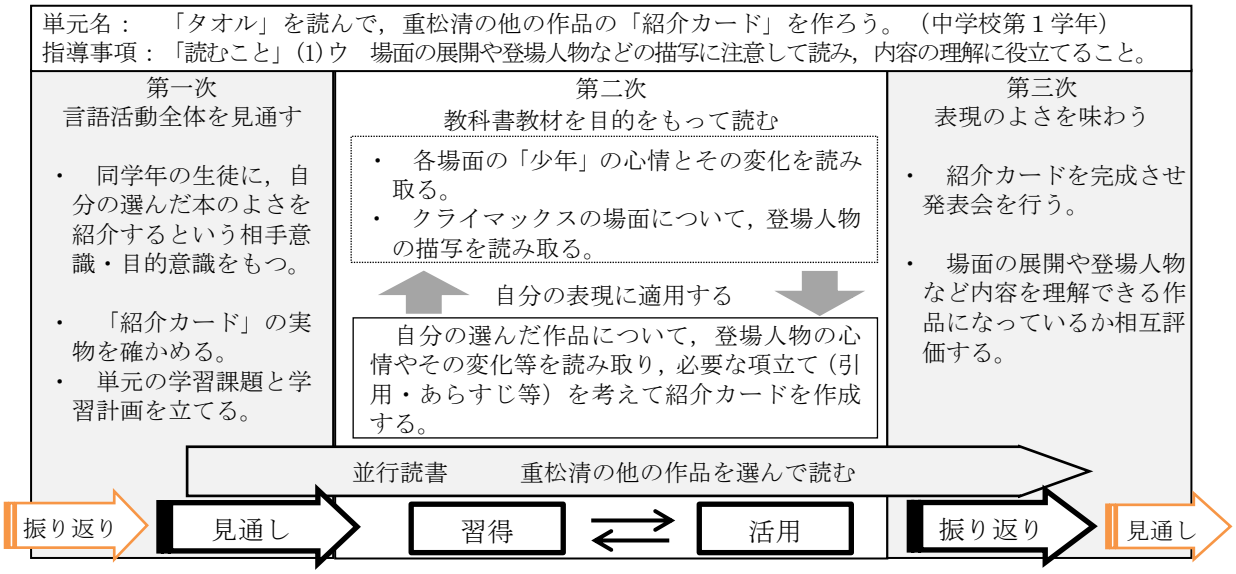


図 11　学習内容の関連を踏まえて設定した，単元を貫く言語活動の例

単元の最初に，登場人物相互の関係に基づいた行動や会話，情景などを通して描写された心情を捉える力を小学校高学年で習得したことを振り返らせる。第一次では，「紹介カード」を作成する言語活動を示すとともに，言葉を手掛かりにして文脈をたどり，「少年」の心情や行動，情景描写などに注意して深く読み取っていくという見通しを立てさせる。そして，第二次では，教科書教材の読み取りの際に習得した力を活用させながら，並行読書している作品の内容理解

に役立てていく。第三次では，作品発表の場において相互評価の学習活動を設定し，身に付けた力を振り返らせるとともに，次単元で身に付けさせたい力である表現の工夫や効果について自分の考えをもつことを意識させる。

(3)　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

ア　「判断基準」の設定

思考力・判断力・表現力を評価するためには，評価規準を基にノートやワークシート等に表れた児童生徒の表現を見取ることが大切である。その際,「判断基準」を設定し「予想される児童生徒の表現例」を想定しておくことで，効果的・効率的な評価と指導が可能になる。

また，指導事項の関連を踏まえることでその精度をより高めることができる。例えば，**表３**に示す既習単元と本単元では，共に中学校第１学年「書くこと」の指導事項ア・イ・ウを指導するが，既習単元では指導事項のイ，本単元では指導事項ウを重点的に指導する。既習単元で確実に実施された指導と評価が本単元の重点指導に効果的・効率的に生かされることになる。

表３　単元間における「判断基準」等の関連（指導事項：イ構成，ウ記述）

既習単元		本単元
単元名：「段落のまとまりを意識して書こう」 教材名：「ちょっと立ち止まって」		単元名：「図表を添えて記録文を書こう」 教材名：「シカの『落穂拾い』～フィールドノートの記録から～」
評価規準 ○　書く能力 適切なテーマを選択し，段落の役割を考えて作文を書いている。		**評価規準** ○　書く能力 論理展開を意識し図表を効果的に活用するなど根拠を明確にして記録文を書いている。
評価の対象 ○　選択したテーマに基づいて書いた作文		**評価の対象** ○　生徒が書いた記録文　　○　評価用紙
判断の要素 ア　テーマ　　イ　段落構成 ウ　具体例・理由と自分の考え　エ　適切な記述		**判断の要素** ア　論理展開　　イ　事実と考えの書き分け ウ　図表の使用　エ　適切な記述
判断基準Ｂ ア　選択テーマに合った作文を書いている。 イ　「初め，中，終わり」の三段落構成の作文を書いている。 ウ　中の段落に具体例や理由を入れ，終わりの段落に自分の考えや抱負を書いている。 エ　適切な語句や文末表現等を使って表記している。	既習単元の判断基準Ｂのイやウを関連させて指導することで、事実と考えの書き分けや、きっかけ・記録・仮説・検証・考察の一連の流れに沿った記述がスムーズに進む。	**判断基準Ｂ** ア　論理展開を意識し，小見出しに合わせて記録文を書いている。 イ　事実と考えを書き分けている。 ウ　図表，写真，イラストなどを使用し，根拠を明確にして，記録文を書いている。 エ　適切な語句や文末表現等を使って表記している。
【予想される生徒の表現例】 私の夏休みの目標は，走る練習をして動ける体を作ることです。 理由は，二学期になると，体育祭があり，学級対抗で全員リレーをするからです。私は，日頃運動をせず，走ることが苦手です。小学校の運動会でも，50mを過ぎたあたりからスピードがグンと落ちてしまいました。今回は，学級27人と，担任，副担任の先生でバトンをつなぐことになっています。 中学校に入って初めての体育祭です。アンカーがゴールしたときに，私もみんなも全力を出せたという達成感を味わいたいと思っています。だから，この夏休みは，毎日，走る練習を頑張ります。	本単元の判断基準Ｂのウによる新たな指導により、判断基準Ｂイの「考え」に深まりが出たり、判断基準Ｂアの「論理展開の意識」がより強くなったりするなどの効果が得られる。	【予想される生徒の表現例】 自分にとってベストバランスの献立は？ ○○市立　○○中学校 1年○組　○○　○○ 1　献立作りのきっかけ 私はバスケットボール部に入っている。バスケットボールは身長が高い方が圧倒的に有利だ。でも，私はとても身長が低い。身長が低い。家庭科の授業で，中学一年生は成長期だということを学習した。成長期の今，身長を伸ばすためには，どんな食事をしたらいいのか知りたいと考え，献立作りをすることにした。 2　３日間の食事記録から分かったこと ９月 11 日から 13 日までの３日間に私は次のような食事をした。 表１　３日間の食事記録 また，栄養士の川原先生から献立を立てるときのポイントとして下の3点を教わった。 ① 中学生女子は１日 2200キロカロリーを目安に食事をすること。 ② １群から６群まで全ての食品群の食材を食べるようにし，食材がなるべく偏らないようにすること。 ③ 「主食」「主菜」「副菜」「汁物・飲み物」の四つの皿をそろえること。 表２　６つの食品群。 食事記録と川原先生の話を比較すると，次のようなことが分かった。 ・間食を含めて５群（ごはん，パン，麺類，芋類，砂糖など）が多い。 ・３群（緑黄色野菜）が少ない。 ・朝は２群（牛乳，小魚，海藻など）が多い。 3　仮説 栄養を偏ばすバランスのよい食事をするために，次のような仮説を立てた。 ① １群から６群全てを入れた献立を考えたらいいのではないか。 ② 緑黄色野菜をたくさん食べられる献立を考えたらいいのではないか。 4　仮説の検証 １群から６群まで全ての食材が入り，緑黄色野菜をたくさん食べられる，次のようなタ食を作ることにした。 写真１　タ食の実際 野菜炒め　焼き魚（サバ）　ご飯　みそ汁 表３　実際に食べた食品群。 仮説①について １群から６群まで全ての食材を入れてタ食を作ることができた。なるべく食品群が重ならないように，主菜は，朝食べた卵，昼食で食べた豚肉以外の食材から選び，サバの焼き魚にした。 仮説②について ほうれん草を昼食で食べていたため，ほうれん草以外の緑黄色野菜から食材を選び，ピーマン，ニンジン，ニラを入れて野菜炒めを作った。四皿を意識することで，普段，不足しがちな栄養素に関する料理を一品考えることができバランスのよいタ食を作ることができた。 5　考察 献立を考える前は，肉を好み，野菜の少ない食事をしていた。実際にタ食を作ってみると，野菜炒めだけでなく，おみそ汁にもたくさんの野菜を入れられることが分かり，食品群にふさわしいバランスのとれた食事となった。 今後は，作った料理のカロリーを計算したり，間食と食事のタイミングや量などを考えたりして，少しでも身長を伸ばせるような食生活を心がけていきたいと思う。 ☆　参考文献

イ　「判断基準」に基づく評価

指導事項については，自ら学び，課題を解決していく能力の育成を重視し，学習過程が明確化されている。「書くこと」の領域では，課題を設定し材料を集め構成を考え記述し，推敲を経て交流するという一連の流れの中で，既習単元では構成の段階までを，本単元ではそれに加えて記述の段階までを重点的に評価する。このように明確化された学習過程において指導事項の関連を踏まえて「判断基準」を設定することで，生徒は学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることが容易になるとともに，教師も常に指導と評価の一体化を意識することができる。

(4)　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

「判断基準」に基づく評価を指導につなげるためには，評価補助簿の活用が有効である。判断基準Ｂを満たした項目には○を付け，満たさなかった項目は×と不十分な点を備考欄に記入する。判断基準Ａに達したものには◎を付け，備考欄に工夫が見られた点を記入する。関連単元の評価簿を確認しておくことで，本単元で個々の生徒にどの「判断基準」による学び直しが必要かが見えてくる。また，関連単元と本単元の評価簿を比較することで，生徒の変容も分かりやすくなる。

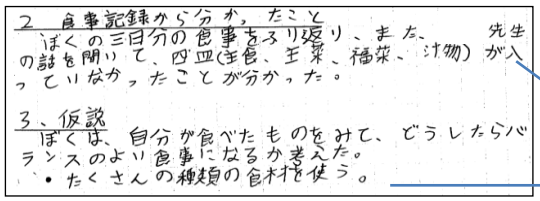
表４　本単元における評価補助簿

判断基準 氏名	ア 展開	イ 事実考え	ウ 図表	エ 表記	評 価	備考
A	×	○	○	○	C	検証
B	×	○	○	×	C	検証，文末
C	○	○	◎	○	A	図表，ｸﾞﾗﾌ

ア　補充指導

表３の本単元の実践における教師の補充指導による生徒の変容を示す。

判断基準Ｂのア「論理展開」がＣ状況



表現を生かして

教師の助言
「分かったこと」と仮説の表現のつながりが弱い。二つを照らし合わせて，「～なら～ではないだろうか。」の表現で仮説を考え直してみよう。

指導後の判断基準Ｂを満たす「仮説」の記述

四皿全てをそろえ，たくさんの種類の食材を使うならば，バランスのよい食事になるのではないだろうか。

イ　深化指導

表３の既習単元の実践における相互評価を生かした深化指導による生徒の変容を示す。

判断基準Ａは，「具体例や理由が詳細で，考えの根拠がよく吟味されている」等が考えられる。

【指導前の作品】　私の夢　一年　○○　○○

私の夢は、助産師になることです。叔母が助産師をしていることが大きな理由です。助産師になるためには、保健の勉強を頑張らなければなりません。でも、私は保健が苦手です。苦手な科目をなくし、宿題以外の勉強にも積極的に取り組まなければなりません。

あこがれの存在である叔母のような助産師を目指して、私はこれから頑張っていきたいと思っています。

【級友の指摘】

○　なぜ助産師になりたいと思ったのか、具体的な理由がほしい。〔判断基準Ｂのウ〕

○　宿題以外の勉強や必要な資格について触れた方がいい。〔判断基準Ｂのウ〕

判断基準Ｂを相互評価の観点とすることにより、級友の指摘を深化指導の助言の一部として利用することができる。

【教師の助言】

○　初めの段落に、「助産師」という職業の紹介を書けば、三段落構成を意識した文章になりますよ。〔判断基準Ｂのイ〕

○　中の段落に、考えの根拠となる具体的理由や専門的な事例を挙げると、説得力が増しますよ。〔判断基準Ｂのウ〕

【指導後の作品】　私の夢　一年　○○　○○

私の夢は、助産師になることです。助産師には、正常なお産の場合に、医師の監督なしに出産を介助することや、妊娠、出産、産後までを見守る仕事があります。

私が助産師を目指すのは、叔母が助産師をしていることが大きな理由です。私は、命を生み出す仕事をする叔母を日頃から尊敬しています。そんな叔母と同じ仕事ができたらと思っています。助産師になるためには、看護師養成機関で看護課程を修了した後、さらに一年間助産課程を学んだ上で、助産師国家試験に合格しなければなりません。

あこがれの存在である叔母のような助産師を目指して、私はこれから頑張っていきたいと思っています。

【平成26年度調査研究発表会】
第１分科会（国語科）研究発表

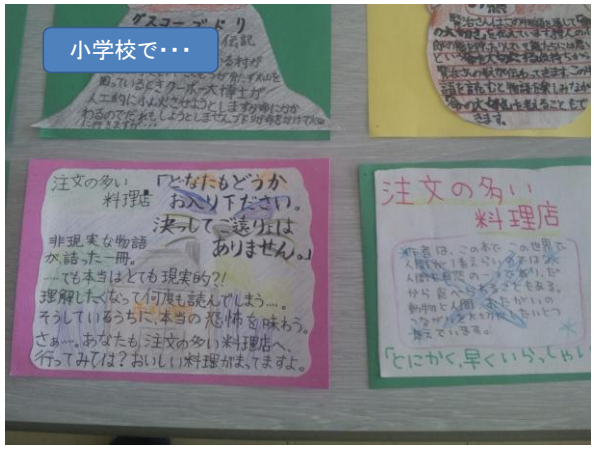
学習内容の関連を踏まえた
思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

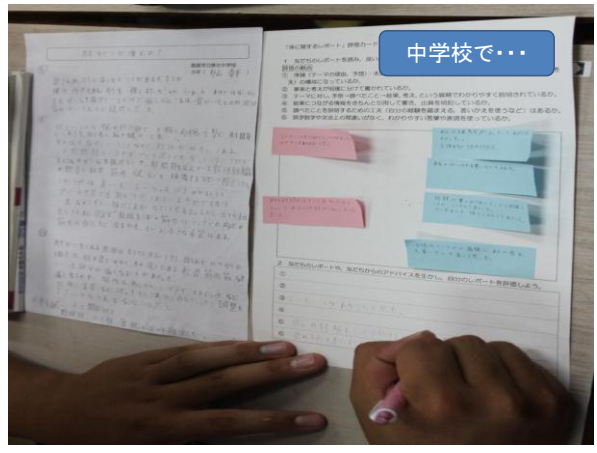
鹿児島県総合教育センター

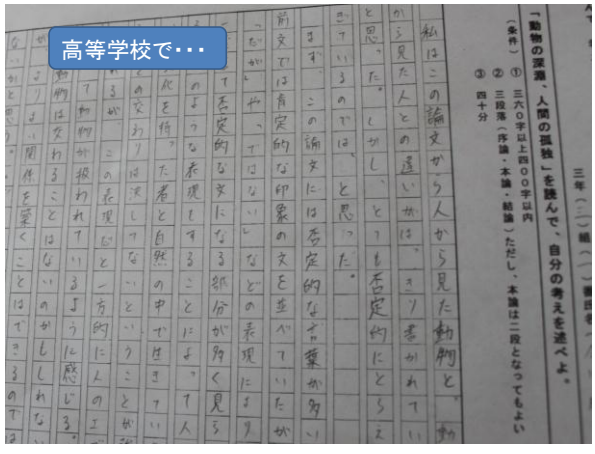
国語科における
思考力･判断力･表現力とは？

思考力･判断力･表現力を
育てるにはどうすればよいか？

思考力･判断力･表現力を
どうやって評価すればよいか？



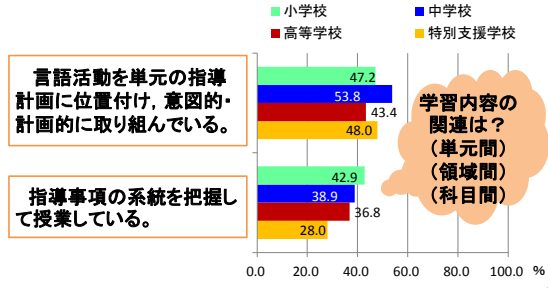




過去の実態調査より

国語科における「思考･判断･表現」の評価について

問　言語活動の充実に関する取組状況



6

第１分科会（国語科）研究発表の内容

1　国語科における学習内容の関連

2　国語科における学習内容の関連を踏まえた指導
（1）　知識・技能の活用を図る学習活動
（2）　見通し・振り返り学習活動

3　国語科における学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価
（1）「判断基準」の設定
（2）「判断基準」に基づく評価

4　国語科における「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導
（1）補充指導
（2）深化指導

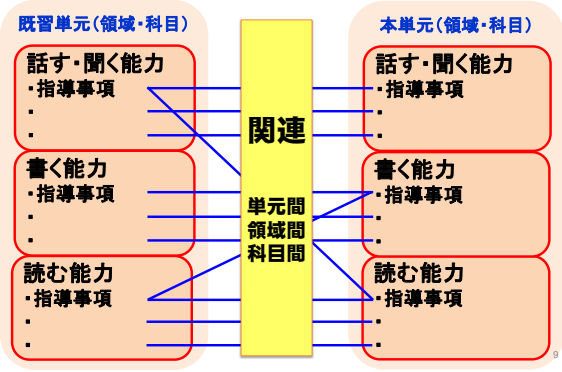
7

1　国語科における学習内容の関連

8

1　学習内容の関連

学習内容の関連を指導事項の関連と捉える

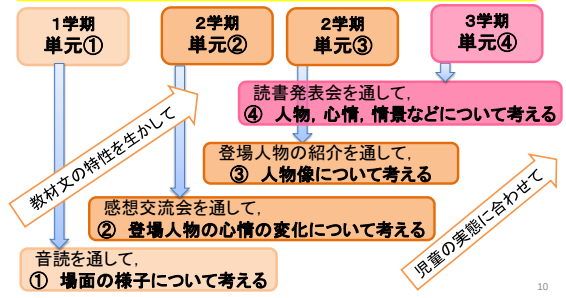


9

1　学習内容の関連

「読むこと」の指導事項ウで，読む能力を高める場合

第3学年及び第4学年「読むこと」文学的文章の解釈
ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて叙述を基に想像して読むこと。



10

2　国語科における学習内容の関連を踏まえた指導

11

2　学習内容の関連を踏まえた指導

知識・技能の活用を図る学習活動　～中学校第1学年～

単元名	教材名	身に付けさせたい指導事項の関連 読むこと	身に付けさせたい指導事項の関連 書くこと	
報告文を書こう（5月）	ダイコンは大きな根？	(1)イ　文章の解釈　中心的な部分と付加的な部分，事実と意見を読み分ける。 活用	(1)ア　課題設定や取材　課題を決め，材料を集め，考えをまとめる。	課題設定取材
段落を意識した条件作文を書こう（6月）	ちょっと立ち止まって	(1)イ　文章の解釈　目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする。 活用	(1)イ　構成　段落の役割を考えて文章を構成する。	活用 構成
図表を添えて記録文を書こう（10月）	シカの「落穂拾い」	(1)エ　自分の考えの形成　文章の展開や構成，表現の特徴について，自分の考えをもつ。 活用	(1)ウ　記述　自分の考えを根拠を明確にして書く。	活用 記述

2　学習内容の関連を踏まえた指導

見通し・振り返り学習活動　～中学校第１学年「読むこと」～

第一次 言語活動全体を見通す	第二次 教科書教材を目的をもって読む	第三次 表現のよさを味わう
・ 同学年の生徒に自分の選んだ本のよさを紹介するという相手意識・目的意識をもつ。 ・「紹介カード」の実物を確かめる。 ・ **単元の学習課題と学習計画を立てる。**	・ 各場面の「少年」の心情とその変化を読み取る。 ・ クライマックスの場面について，登場人物の描写を読み取る。 ↓ 自分の表現に適用する ↑ ・ 自分の選んだ作品について，登場人物の心情やその変化等を読み取り，必要な項立て（引用，あらすじ等）を考えて紹介カードを作成する。	・ 紹介カードを完成させ発表会を行う。 ・ 場面の展開や登場人物など内容を理解できる作品になっているか**相互評価する。**

並行読書　重松清の他の作品を選んで読む

振り返り → 見通し → 習得 ⇄ 活用 → 振り返り → 見通し

3　国語科における学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

国語科における「思考・判断・表現」の評価の観点

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能

基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付け

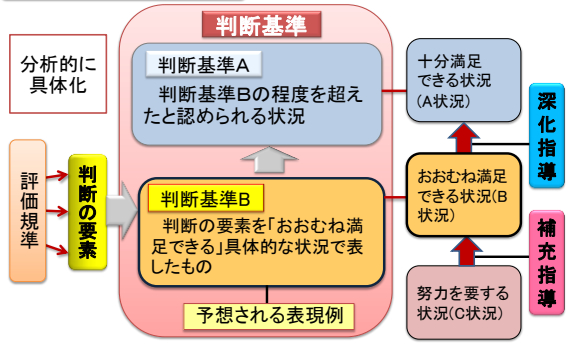
評価の観点の焦点化

【例】「書くこと」の領域の単元

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

「判断基準」設定の考え方



3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

「判断基準」設定例　「書くこと」 中学校第１学年　説明的な文章

	既習単元	本単元
単元名「教材名」	○ 段落のまとまりを意識して書こう ○「ちょっと立ち止まって」	○ 図表を添えて記録文を書
指導事項	イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに，**段落の役割を考えて文章を構成する**こと。	ウ 伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを，根拠を明確にして書く。
評価規準	適切なテーマを選択し，**段落の役割を考えて**作文を書いている。	**論理展開を意識し**，図表を効果的に活用するなど**根拠を明確にして**記録文を書いている。

本単元で新たに身に付けさせたい要素を盛り込む

既習単元の評価規準を受け，同じ要素を盛り込む

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

判断の要素	既習単元	本単元
	㋐ テーマ（課題）	㋐ 論理展開
	㋑ 段落構成	㋑ 事実と考えの書き分け
	㋒ 具体例・理由と自分の考え	㋒ 図表の使用
	㋓ 適切な記述	

判断基準B		
	㋐ 選択したテーマに沿った作文を書いている	㋐ 論理展開を意識し，小見出しに合わせて記録文を書いている
	㋑「初め，中，終わり」の三段落構成で書いている	㋑ 考えと事実を書き分けている
	㋒ 中の段落に具体例や理由，終わりの段落に自分の考えや抱負を書いている	㋒ 図表，写真，イラストなどを使用し，根拠を明確にして記録文を書いている
	㋓ 適切な語句や文末表現等を使って表記している	

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

既習単元

予想される生徒の表現例

㋐

私の夏休みの目標は，走る練習をして動ける体を作ることです。

理由は，二学期になると，体育祭があり，学級対抗で全員リレーをするからです。私は，日頃運動をせず，走ることが苦手です。小学校の運動会でも，50Mを過ぎたあたりからスピードがグンと落ちてしまいました。今回は，学級27人と，担任，副担任の先生でバトンをつなぐことになっています。

中学校に入って初めての体育祭です。アンカーがゴールしたときに，私もみんなも全力を出せたという達成感を味わいたいと思っています。だからこの夏休みは，毎日，走る練習を頑張りたいです。

㋑ 始め

中

終わり

㋒

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

本単元

予想される生徒の表現例

自分にとってベストバランスの献立は？

○○市立 ○○中学校
1年○組 ○○ ○○

1　献立作りのきっかけ

2　3日間の食事記録から分かったこと

表1　3日間の食事記録

表2　5つの食品群

3　仮説

4　仮説の検証

写真1　クラスの献立

表3　実際に食べた献立表

5　考察

考え

事実

考え

事実

考え

㋐ 論理展開を意識した小見出し
1　○○のきっかけ
2　○○から分かったこと
3　仮説　4 仮説の検証　5 考察

㋑ 考えと事実の書き分け

㋒ 図表などを使用し根拠を明確に

4　国語科における「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

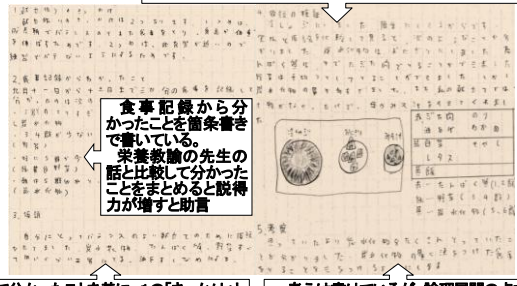
4　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

判断基準 ＼ 氏名	ア 論理展開	イ 事実考え	ウ 図表	エ 表記	評価	備考
A	×	○	○	○	C	事実を基にした仮説ではない
B	×	○	○	×	C	検証が弱い 文末の不統一
C	○	○	◎	○	A	図やグラフに説得力がある
D	○	○	○	○	B	
E	○	○	○	○	B	
F	×	○	×	×	C	主述のねじれ 無関係の写真

4　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

補充指導

検証の書き方の理解が不十分
やったこと→結果（仮説に合わせて書く）の流れを教材文や友達の作品で確認するよう助言



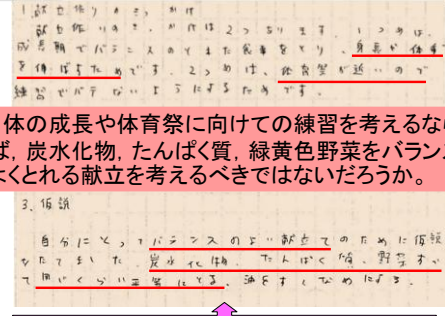
食事記録から分かったことを箇条書きで書いている。
栄養教諭の先生の話と比較して分かったことをまとめると説得力が増すと助言

2で分かったことを基に，1の「きっかけ」とつながるように仮説を立る。「～なら…ではないだろうか」と「考え」を書くことを助言

考えは書けているが，論理展開の点で不十分
きっかけと照らし合わせて書くよう助言

4　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

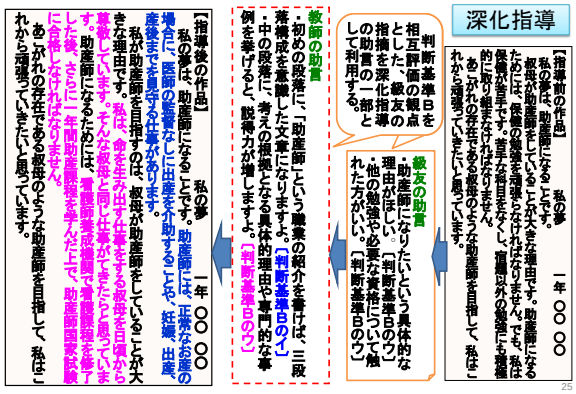
補充指導



体の成長や体育祭に向けての練習を考えるならば，炭水化物，たんぱく質，緑黄色野菜をバランスよくとれる献立を考えるべきではないだろうか。

2で分かったことを基に，1の「きっかけ」とつながるように仮説を立てる。「～なら…ではないだろうか」と「考え」を書くことを助言

4　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導



25

国語科の研究成果と課題

成果

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成

○　意図的・計画的に取り入れた見通し・振り返り学習活動による継続的な思考力・判断力・表現力の育成

学習内容の関連を踏まえた思考力・　判断力・表現力の育成と，それを見取る評価

○　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定による，具体的な補充指導や深化指導

26

国語科の研究成果と課題

課題

△　適切な言語活動による思考力・判断力・表現力の育成とより精度を高めた「判断基準」による効果的・効率的な評価の研究

27

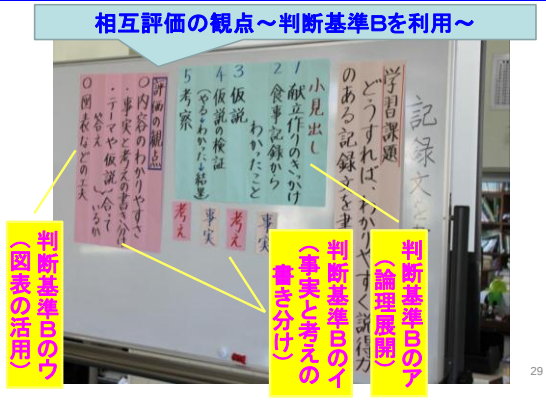
【平成26年度調査研究発表会】
第１分科会（国語科）研究発表

学習内容の関連を踏まえた
思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

鹿児島県総合教育センター

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

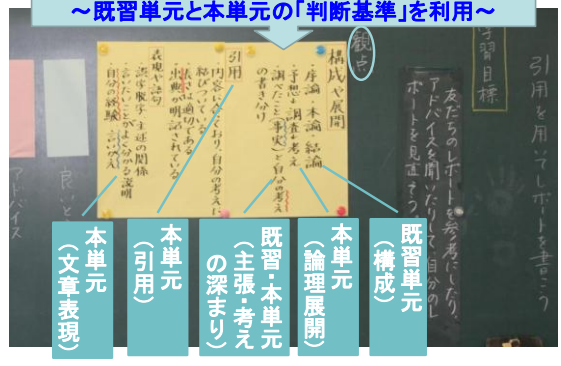
相互評価の観点～判断基準Bを利用～



29

3　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

相互評価の観点
～既習単元と本単元の「判断基準」を利用～



事　例　１

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業
～第５学年「読むこと」の実践を通して～

薩摩川内市立隈之城小学校
教　諭　　柴　田　　浩

１　教材について

今回扱った単元・教材名は，次のものである。

単元名：作品を自分なりにとらえ，朗読しよう

教材名：「大造じいさんとガン」

本単元は，朗読という言語活動に初めて取り組む単元である。教材の特性を生かしながら，また，学習内容の関連を踏まえながら，思考力・判断力・表現力が育成できるような単元を構想しようと考えた。

２　学習内容の関連

下の図は，第５学年における文学的文章を扱った単元間における学習内容の関連を図式化したものである。

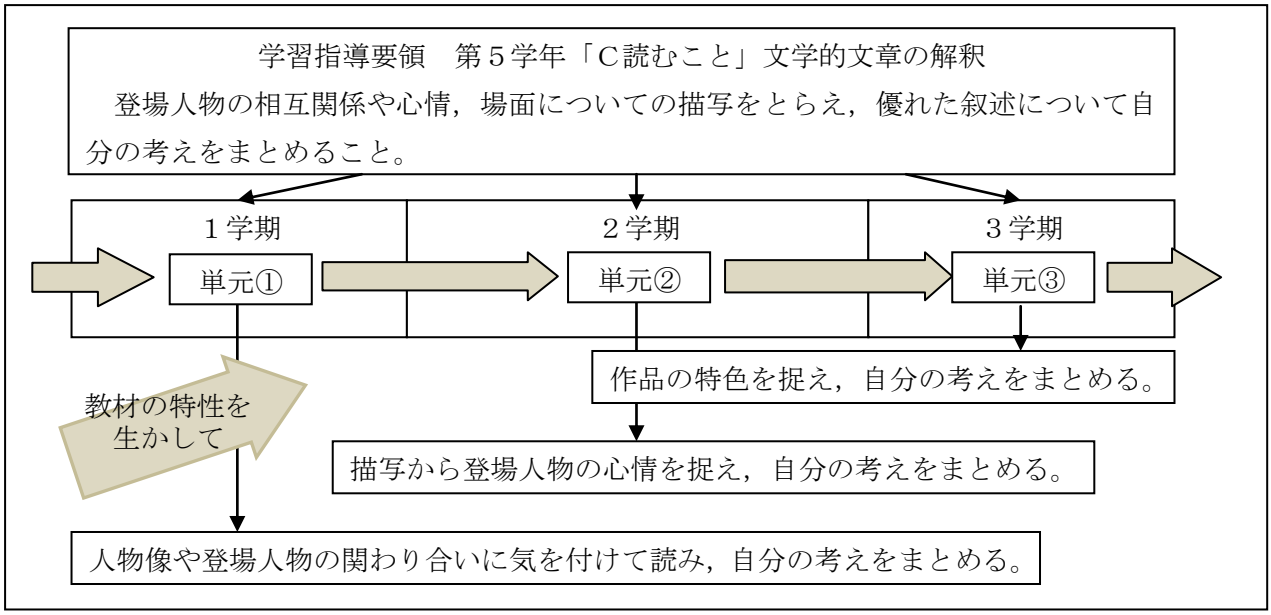


図　文学的文章を扱った単元間における学習内容の関連

単元①「人物のかかわり合いを読み，感想を書こう」（教材「のどがかわいた」）では，感想を書く活動を通して，人物像や登場人物の関わり合いに気を付けて読み，自分の考えをまとめる力を育成する。

今回扱った，単元②「作品を自分なりにとらえ，朗読しよう」（「大造じいさんとガン」）では，朗読する活動を通して，情景描写・行動描写などから捉えられる登場人物の心情について自分の考えをまとめる力を育成する。

３学期に扱う，単元③「物語を読んで，自分の考えをまとめよう『わらぐつの中の神様』」では，作品に対する自分の考えを書く活動を通して，構成や人物像，表現などの作品の特色について考えをまとめる力を育成する。

３　学習内容の関連を踏まえた指導

⑴　知識・技能の活用を図る学習活動

今回の単元では，単元①「人物のかかわり合いを読み，感想を書こう」（教材「のどがかわいた」）で学んだ「人物像や登場人物の関わり合いに気を付けて読み，自分の考えをまとめること」を生かし，大造じいさんの人物像や大造じいさんと残雪の関わり合いを捉えた。また，これまでに学んできた「中心人物」や「対人物」などの学習用語も活用した。

⑵　見通し・振り返り学習活動

今回の単元では，自分が読み取ったことがよく伝わるように表現を工夫して朗読することを，単元を貫く言語活動として設定して，見通しをもたせた。また，第三次で発表会を行って相互評価をすることで効果的に振り返られるようにした。

学習内容の関連を踏まえた単元の構想

単元名　：　作品を自分なりにとらえ，朗読しよう。（小学校第５学年）

指導事項：　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。（「読むこと」エ）

第一次	第二次	第三次
言語活動全体を見通す	教科書教材を目的をもって読む	表現のよさを味わう
・　同学年の児童に，自分なりに工夫した朗読を発表するという相手意識・目的意識をもたせる。 ・　音読と朗読の違いを伝え，朗読について理解させる。 ・　単元の学習課題と学習計画を立てる。	大造じいさんの心情の変化を，作品の概要を捉えた後に，出来事，情景描写・行動描写などから読み取る。 ↑ 自分の表現に生かす ↓ 大造じいさんの心情の変化を捉える際に，これまでに学習してきた用語を活用しながら学習を進めていく。（中心人物，対人物，出来事，視点，語り手など）	・　捉えた心情の変化を基に，それぞれが朗読の工夫を考える。 ・　朗読の工夫を記入した発表原稿を完成させ，発表会を行う。 ・　朗読の工夫ができていたか，工夫が伝わる朗読となっていたかを相互評価させる。

学習用語の活用　　学習用語を明確に定義し，効果的に学習を進める

振り返り　見通し　　習得 ⇄ 活用　　振り返り　見通し

さらに，習得した学習用語を活用させるために，第一次で前の単元で習得した学習用語を活用することを伝える。第二次の作品の概要を捉える場面では，学習用語の定義を確認し，掲示をして，学習用語を作品の概要を捉えるための手掛かりとして活用する。

写真１　学習用語の掲示資料

⑶　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

ア　「判断基準」の設定

単元間の関連を踏まえた「判断基準」の設定

既習単元	本単元
単元名：「人物のかかわり合いを読み，感想を書こう」 教材名：「のどがかわいた」	単元名：「作品を自分なりにとらえ，朗読しよう」 教材名：「大造じいさんとガン」
評価規準	評価規準
○　読む能力 登場人物の相互関係に気を付けて読み，それらについての自分の考えをまとめ，感想を書いている。	○　読む能力 登場人物の相互関係から生まれる心情を，情景描写や行動描写などに基づいて捉え，それらについての自分の考えが伝わるように朗読を工夫している。
評価の対象	評価の対象
○　感想文を記したワークシート	○　朗読原稿
判断の要素	判断の要素
ア　登場人物の関わり合い イ　自分の考え ウ　自分の考えの理由	ア　情景描写や行動描写 イ　登場人物の心情 ウ　朗読の工夫
判断基準Ｂ	判断基準Ｂ
ア　登場人物の関わり合いを，叙述を基に捉えている。 イ　捉えた関わり合いについての自分の考えを表現している。 ウ　考えた理由を，自分の経験に基づいて表現している。	ア　登場人物の心情を捉えられる描写を抜き出している。 イ　登場人物の心情について描写を基に捉えている。 ウ　捉えた心情を理由として，朗読を工夫している。
【予想される児童の表現例】 この物語は、主人公のイタマルと、そのルームメイト、ミッキーがおたがいにのどのかわきを知っていること知り、好きな女の子の話ができるほど仲良くなっていく話である。 わたしは、ここにえがかれている二人の関係について、とてもよく分かるなあと思った。 なぜそう思ったかというと、わたしも、今まではあまり話をしなかった人と同じ本が好きなことが分かって、たくさん話をするようになったことがあるからだ。	

既習単元で、登場人物の相互関係についての捉え方を習得・活用させ、本単元でも更に活用させることで、登場人物の心情を効果的に捉えられるなどの効果が得られる。

本単元の描写を基に登場人物の心情を捉え、朗読を工夫する学習をすることで、描写を基に登場人物の心情を捉える力を高めるなどの効果が得られる。

既習単元では，登場人物の相互関係に基づいて心情を捉え，感想文を書く学習をした。

本単元では，既習単元で学んだことを生かしながら，情景描写や行動描写などから心情を捉え，それを自分の表現（朗読）に生かす学習を行った。

これらの学習を積み重ね，さらに，単元③「物語を読んで，自分の考えをまとめよう『わらぐつの中の神様』」での学習を通して，指導事項エ「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめる」ことを意図的・計画的に指導できると考え，「判断基準」を設定した。

イ　「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

Ａさんの初めの朗読原稿

①「バシッ」は、力強い声で読む。	残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。が、 バシッ。　＜（間） 快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。　力強く
②「はらはらと散りました。」は清らかな、やさしい声で読む。	らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。　やさしく
③「おういい、ガンの英雄よ―」は、明るい声で読む。	「おういい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」　明るく
④「堂々と戦おうじゃあないか」は、わくわくするような声で読む。	大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。　わくわく

Ａさんの初めの朗読原稿には，「描写の抜き出し（判断の要素ア）」と「朗読の工夫（判断の要素ウ）」については書いてあるものの，朗読の工夫の理由となる「登場人物の心情についての自分の考え（判断の要素イ）」が書かれていなかった。

そこで，「○○は，△△だから，□□読む。」という書き方をすることを確認し，「○○」には本文を，「△△」には，登場人物（大造じいさん）の気持ちを，「□□」にはどう読むかを書くように指導した。

指導の結果，Ａさんは，原稿の理由を書く部分を下のように書き換えた。

Ａさんの指導後の朗読原稿（理由の部分）

①「バシッ」は、とても強い音なので、力強い声、びっくりするような声で読む。	②「はらはらと散りました。」は清らかなので、やさしい声で読む。	③「おういい、ガンの英雄よ―」は、優しく言っている感じなので、明るい声で読む。	④「堂々と戦おうじゃあないか」は、とても楽しみな感じだから、わくわくするような声で読む。

①には，理由が書き加えられた。しかし，ここでは，登場人物の心情を理由とすることが難しかったため，文章から受けた印象を理由としている。

②は，「清らかなので」を理由としていた。その意図を確認したところ，登場人物（大造じいさん）の気持ちが清らかという意味で書いたということであったため，登場人物の心情についての自分の考えを理由として書くことができたと判断した。

③は，「優しく言っている感じ」を理由として書き加えていた。会話文から登場人物の心情について考えることができた。

④は，「とても楽しみな感じ」を理由として書き加えた。これも，会話文から登場人物の心

情について考えることができた。

このように，指導者が「判断の要素」や「判断基準」を明確にもっておくことで，非常に評価がしやすくなった。評価がしやすいのと同様に，その評価に基づいて効果的に指導できた。

⑷　他の領域との関連

今回は，「話すこと・聞くこと」領域との関連を考え，単元「豊かな言葉の使い手になるためには」で学ぶ，「グループ討論」を本単元の読み取りの中で活用していくこととした。一人一人に読み取らせ，考えをもたせた後「グループ討論」をすることで，一人一人の読みが広がったり深まったりすると考えたからである。また，「グループ討論」を繰り返すことで，進め方や質問・意見の出し方など，「豊かな言葉の使い手になるためには」での学習内容をしっかり定着できると考えた。そのため，グループ討論の仕方などの既習事項の掲示なども行うこととした。

写真２　グループ討論の様子

写真３　グループ討論用の掲示資料

４　授業を終えて

⑴　思考力・判断力・表現力の継続的な育成に必要な学習内容の関連の設定

国語の学習では，児童が単元間のつながりを意識することは難しい。しかし，今回の取組では，指導者が学習内容の関連を強く意識することで，児童が学習内容の関連を意識するようになった。これまでの単元の学習内容に触れながら繰り返し指導したことで，前の教材を確認するために教科書を読み返す姿が見られるようになった。これは，今まではあまり見られなかったことであり，児童の思考力・判断力・表現力が育成されている姿だと感じた。今後も継続的に指導をし，児童の変容を観察していく必要がある。

また，学習内容を関連させるために習得した学習用語に関する知識・技能を活用しながら継続的に指導したことは非常に有効だった。学習用語を手掛かりとして思考力・判断力・表現力が育成できるであろうと手応えを感じている。今後，学年や学校全体で共通実践できるように研修を深めていきたい。

⑵　学習内容の関連を踏まえた指導

単元においては，これまでの単元で習得した学習内容を積極的に活用し，次の単元の学習が充実するように単元計画を工夫した。このことで，学習内容を繰り返し意識させることとなり，学習内容の定着につながると感じた。

また，学習用語を定義付け，繰り返し使うことで，学習用語の定着が図られるとともに，学習内容の関連を児童がよりはっきりと意識できていた。

⑶　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定に基づく指導と評価の一体化

「判断基準」を設定することで，目指す児童の姿をより鮮明にイメージすることができた。そのため，単元計画などを立案することがより容易になった。特に，判断基準Ｂを全て満たした「予想される児童の表現例」を明確にしたことは，効果的に評価し，それに基づいた指導をするために大変役立った。

参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」　東洋館出版社　平成 20 年
白石範孝　「国語授業を変える『用語』」　文渓堂　2013

事　例　２

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～第３学年「読むこと」と「書くこと」の実践を通して～

鹿屋市立輝北中学校
教 諭　浪瀬　慶視

１　研究のねらい

学習指導要領においては，知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することが基本的なねらいであるとされている。また，基礎的・基本的な知識・技能を基盤として，思考力・判断力・表現力等を育むために観察・実験，レポートの作成といった知識・技能の活用を図る学習活動を充実させるとともに記録, 要約, 説明, 論述といった学習活動の必要性が示されている。さらに，その中では子供たちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し，段階ごとに具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し，重点的な指導が行われるようにすることも示されている。

本研究は,「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元において，学習内容の関連を踏まえた「思考力・判断力・表現力」を育成することをねらいとした「判断基準」に基づく指導と評価の一体化についての実践を行ったものである。

本校第３学年の生徒は，これまで実施した鹿児島定着度調査，標準学力検査，全国学力・学習状況調査において「読むこと」の平均正答率よりも,「書くこと」の正答率が高いという実態がある。また，理科の自由研究においても独自の発想を大切にしながら，科学的な視点で研究を行いレポート等にまとめることができている。

そこで，本研究では説明的な文章の学習において，基本的な「読むこと」の学習を行った後,「書くこと」との関連を図り，多様な文章の書き方を身に付けさせることで，説明的文章を読む能力及び書く能力を向上させたいと考えた。その際,「読むこと」及び「書くこと」における「思考・判断・表現」の指導と評価の一体化を図るために「論理展開を考えながら引用や説明の工夫を用いてレポートを書く」という単元を貫く言語活動について「判断基準」を設定した授業を実践した。

２　研究の実際

(1)　学習内容の関連について

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し，能力の定着を図ることを基本としている。そこで，本校生徒の実態を振り返り,「読むこと」と「書くこと」を複合させた説明的文章の単元において，図１のように関連を図りながら授業実践を行うことにした。なお，ここでは「書くこと」の指導事項に絞って，重点的に指導すべき内容を系統的に整理した。

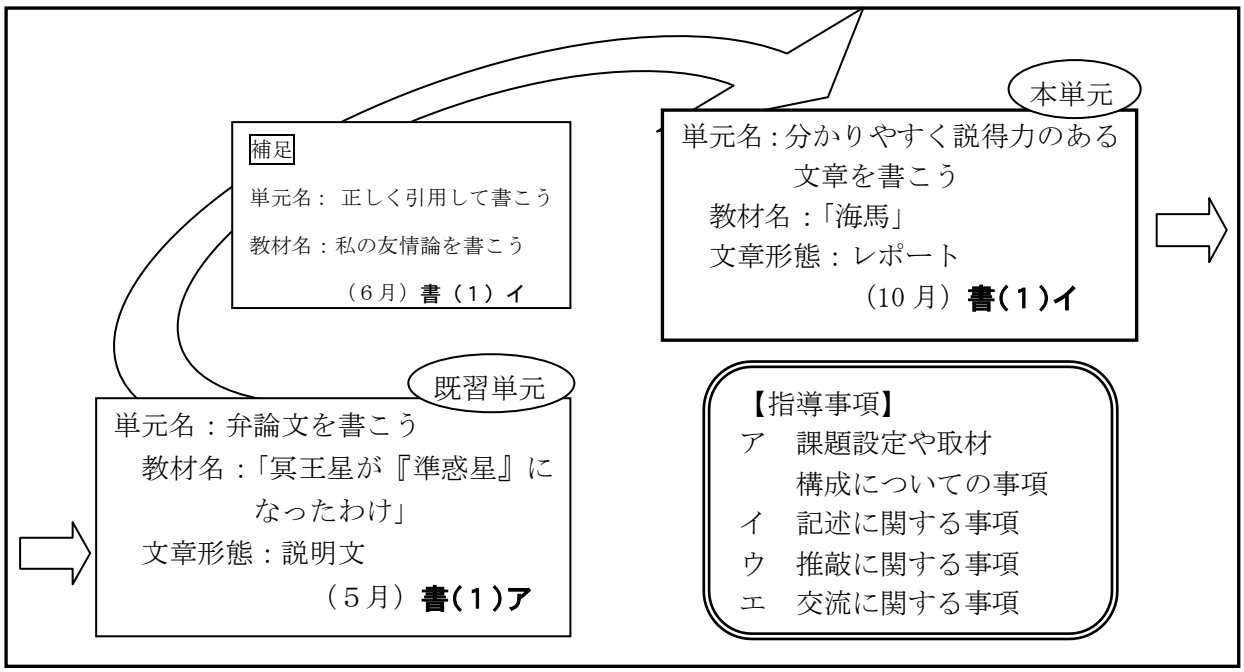


図１　説明的文章における学習内容の関連図（三省堂「中学生の国語３年」）

(2)　授業実践について

ア　単元名　分かりやすく説得力のあるレポートを書こう（体に関するレポート集）

イ　教材名　「海馬」　池谷裕二　糸井重里

「資料を適切に引用し，説明を工夫して体に関するレポートを書こう」

ウ　単元及び本時の概要

(ｱ)　関連する既習単元までの学習評価を踏まえた本単元（全７時間）の概要

①　前単元までの指導内容

「弁論文を書こう」，「冥王星が『準惑星』になったわけ」の指導内容

〈第一次，第二次〉

・ 天文学の歴史について理解し，冥王星が準惑星に降格する理由を読み取る。

・ この文章と他の資料を読み比べ，筆者の考え方や論の進め方について考える。

〈第三次〉

・ 身近な出来事についてのテーマと自分の主張を支える適切な情報を選択し，「序論・本論・結論」の構成で弁論文を書く。

②　前単元までに育成できた力

「弁論文を書こう」，「冥王星が『準惑星』になったわけ」で育成できた力

・ 文章や資料を読み，社会や自然について考える力（読ウ）

・ 社会生活の中から情報を収集して，考えを深め，構成を工夫して書く力（書ア）

「私の友情論を書こう」で育成できた力

・ 資料を適切に引用する力（書イ）

③　前単元までに育成できていない力

・　テーマについて収集した情報を分かりやすく説明すること。（書イ）

〈 育成できなかった理由 〉

情報の収集や考えを深めることはできたものの，それを理由となる根拠とともに分かりやすく説明することができなかったと考える。

④　本単元の重点

・　自分の経験や具体例，言い換えを用いて分かりやすく明確な論理展開でレポートを書くための言語活動を設定する。

・　「論理展開」，「適切な引用」，「経験や具体例，言い換えの明記」の３点を分かりやすく説得力のあるレポートを書く際の視点として設定する。

・　Ａ４用紙１枚程度のレポートを書かせる。

(ｲ)　本時（７／７）の概要

本単元の重点事項とした「Ｂ　書くこと」の指導事項（１）イを効果的に指導するために，５月に実施した「弁論文を書こう」で扱った適切な情報収集や主張を支える情報の選択，「序論・本論・結論」の文章構成，分かりやすい表現の工夫について振り返る時間を設け，説明的文章が螺旋的・反復的に学習できるようにする。

また，上に挙げた前単元での学習内容や本単元の評価規準が本時の相互評価と関連するように項目を作成する。

エ　単元の評価規準

(ｱ)　単元を貫く言語活動の設定

第一次	第二次	第三次
・　考えの根拠や論理展開で気付いたことを交流する。 ・　課題を設定する。	・　対談における話題の転換などの論理展開を押さえた上で，内容を理解する。 ・　身近な経験への言い換えなど，説明の工夫について理解する。	・　資料を適切に引用し，体に関するレポートを書く。

(ｲ)　単元における評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①　レポートに興味をもち，体に関する疑問について意欲的に考えようとしている。 ②　具体例や言い換えに注意しながら読もうとしている。 ③　分かりやすい説明に気を付けてレポートを書こうとしている。	①　説明の工夫や言い換えの効果的な使い方など，表現上の工夫について，理解している。 ②　話題がどのように変化しているかを読み取り，内容の理解に役立てている。	①　論理展開を意識して，自分の考えの根拠としてふさわしい引用を用い，説得力のある文章を書いている。 ②　事実や意見が効果的に伝わるように言い換えや具体例を用いて説明し，適切な語句・表現でレポートを書いている。	①　論理展開に関わる接続語や言い換えなど語句の効果やつながりについて理解している。

(ｳ)　学習の関連を踏まえて設定した「判断基準」

既習単元 ―――――――――――――――→ 本単元

評価規準（「思考・判断・表現」）	
○　書く能力① 関心のある身近な出来事について，情報を選択し構成を考えて弁論文を書いている。 書（1）ア	○　書く能力② 体に関することについて，論理展開や引用を意識して分かりやすく説得力のあるレポートを書いている。 書（1）イ
思考，判断に基づく表現内容（評価の対象）	
○　生徒の書いた弁論文	○　生徒が書いたレポート
判断の要素	
ア　テーマ　　イ　情報収集・選択 ウ　構成　　エ　自分の主張	ア　論理展開　　イ　引用・出典 ウ　説明の工夫　　エ　内容の表記
判断基準Ｂ	
ア　身近な出来事についてのテーマを選択している。 イ　自分の主張を支える情報を選択している。 ウ　「序論・本論・結論」の構成で600字程度の弁論文を書いている。 エ　テーマについて自分なりの考えをもち，分かりやすい表現で書いている。	ア　自分の意見を述べ，検証しながら結論へ結び付けている。 イ　自分の考えの根拠としてふさわしい引用を用い，出典を明示している。 ウ　事実や意見が効果的に伝わるように自分の経験を踏まえた説明や具体例を加えたり，分かりやすい言い換えを用いたりしている。 エ　予想との比較や新たな発見について適切な表現で書いている。
予想される生徒の表現例（部分） 〈序論〉朝の挨拶が物足りなく感じた。なぜ，挨拶は必要なのか。〈本論〉挨拶は承認欲求を満たし人間関係を円滑にするという。〈結論〉挨拶はコミュニケーションの第一歩だ。	予想される生徒の表現例 ※　次ページ参照
Ｃ状況の生徒への指導	
判断基準Ｂを基に，情報収集や文章構成の内容，テーマに対しての主張の仕方など，前時までのワークシート等を活用して補充指導を行う。	判断基準Ｂを基に，論理展開や引用の方法，適切な文章表現など，前時までのワークシート等を活用して補充指導を行う。
判断基準Ａ	
・　テーマの選択や自分の主張について，独自の視点を持って述べている。 ・　自分の主張を支える根拠が明確で，論理的に展開されている。	・　実践に加え，図の利用や具体例の活用が発展的である。 ・　論理展開が分かりやすく，テーマの設定や自分の考えが実生活につながる内容になっている。
Ｂ状況の生徒への指導	
新聞の生徒投稿作品を参考に自分なりの視点を考えさせたり，自分の主張がどの情報と結び付くのかを照らし合わせたりしながら深化指導を行う。	判断基準Ａの状況にある生徒の作品と比べ，どの部分を引用したり，どのような例を使ったりするのが効果的かを考えさせながら深化指導を行う。

(ｴ)　本単元における「予想される生徒の表現例」

なぜ血液は赤いのだろうか

鹿屋市立　輝北中学校
３年　〇〇　〇〇

部活動などで膝をすりむいたり，包丁で指を切ったりすると血が出る。では，なぜ血は赤い色をしているのだろうか？

私は血の中に何らかの赤い物質が含まれているのではないか，もしくは血管に血液を赤くする何かがあるのではないかと予想した。

調べてみると赤血球が血液を赤く見せている，ということがわかった。

詳しく説明すると，血液は体の中を流れる川のようなもので，体のすみずみまでいきわたっている。しかしこの血液すべてが赤いわけではない。この中で赤い色をしているのは赤血球とよばれるもので，その中にふくまれているヘモグロビンが赤いからである。ヘモグロビンは鉄でできていて，赤い色をしている。そしてこのヘモグロビンが，血液の仕事である，酸素を体中に運ぶという役割（やくわり）をはたしている。簡単にいうと，血が赤いのは，その中にあるヘモグロビンが赤いからということになる。

ヘモグロビンは，グロビンというタンパク質にヘムという色素が結合してできていて厳密にいうと赤いのはこのヘムなのである。この赤さのもとは，ヘムの中の鉄原子だと考えられている。

このことを知って思い出したのが，口の中を切ったときのことだ。血をなめると鉄のような味がする。これは血の中に鉄原子が含まれているからなのだと考える。

血液について調べてみると，予想したとおり血液の中の赤血球が血液を赤くしているということがわかった。さらに，その中のヘモグロビンのヘムという物質が赤さの元になっているということまで知ることができた。

今回のことで血液についてより興味が出てきたので，さらにその働きや機能なども調べてみたい。

参考文献

須田都三男『からだをめぐる血とさんそ』小峰書店　ｐ22

(ｵ)　単元の指導計画(７時間扱い)

時	学習活動	【評価規準　評価方法】
1	1　全文を通読し，気付いたことを発表し，学習の目標を捉える。 2　説明の中で分かりやすいと思う部分を捉える。	1　気付いたことや対談の特徴を中心に，初発の感想を書いている。　【関心②　ノート】 2　対談の中で言い換えをしている言葉のつながりや効果を理解している。　【読む①　ノート】
2	3　話の展開を読み取り，対談の聞き手の言葉の働きについて考える。 4　専門家の説明と話の聞き手の理解を捉え，言い換えの効果について考える。	3　説明の仕方や話の聞き方にどのような工夫があり，また，どのような効果があるのか理解している。　【読む①②　発言　ノート】 4　専門的な用語を経験したことがある内容の言葉に言い換えることでどのような効果があるのか理解している。　【読む①　発言　ノート】
3	5　説明や聞き手の工夫の方法と効果について考える。 6　対談形式の文章の特徴を踏まえ，読み取ったことをまとめる。	5　説明者が工夫している言葉と聞き手が工夫している部分を捉え，理解している。 【読む①②　発言　ノート】【言①　発言　ノート】 6　専門家と聞き手の対談形式ということを踏まえ，中心的内容を捉えてまとめている。 【読む②　発言　ノート】
4 5 6	7　具体例や言い換えを効果的に用いて，体に関するレポートを書く。 〈序論〉 ・　テーマについて調べる理由と自分なりの予想を書く。 〈本論〉 ・　調べた内容を引用して分かりやすく書く。 ・　自分の体験や経験などの具体例や言い換えを踏まえて書く。 〈結論〉 ・　調べた結果を自分の予想と比べたり，新たな発見についての感想を書いたりする。	7　話題提示を文章表現できる。 【関心①　ワークシート】【書く①　ワークシート】 8　自分の経験を踏まえ，予想を立てることができる。 【関心①　ワークシート】【書く①　ワークシート】 9　テーマについて調べ，明らかになった事実をまとめることができる。 【関心①　ワークシート】【書く②　ワークシート】 10　調べたことを経験に照らし合わせ説明することができる。 【関心①　ワークシート】【書く②　ワークシート】 11　論理展開や引用の効果を考えながら，説明を工夫してレポートを書くことができる。 【書く①②　レポート】
7	8　グループでレポートを読み合い，相互評価，自己評価する。 9　これまでの活動やレポートについて振り返る。	12　レポートを読み合い，引用の使い方，論理展開，表現上の課題について気付くことができる。 【書く①②　評価用紙】 13　友人のレポートや自分への評価を参考に，自分のレポートの良い点や問題点をまとめることができる。　【書く①②　ワークシート】

オ　本時の実際　　（７／７）

(ｱ)　目標

説明を工夫しながら書いたレポートを読み合い，構成や表現を評価する。

(ｲ)　実際

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点
導入	5分	一斉	1　本時の学習目標を確認する。	1　レポートを書く学習を振り返るために，レポートを相互評価，自己評価することを確認させる。
			友達のレポートを参考にしたり，アドバイスを聞いたりして自分のレポートを見直そう。	
			2　評価の観点を確認する。	2　ワークシートで確認させる。
展開	20分	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	3　レポートをグループ内で読み合い，評価カードに良い点やアドバイスを書いた付箋を貼る。	3　良い点は青の付箋，アドバイスはピンクの付箋に記入させ，評価カードに貼らせる。 机間指導を行い，補充・深化のための声掛けをする。
	15分	個人	4　自分のレポートの評価を行う。 	4　友達のレポートを参考にしながら，どのような展開や表現が分かりやすいか考えさせる。 机間指導を行い，補充・深化を図る。
	5分	一斉	5　友達や自分のレポートの良い点を挙げる。	5　分かりやすいレポートの特長について共有させる。
終末	5分	一斉	6　レポートや引用について振り返り，本時のまとめをする。	6　今後のレポート作成や研究発表に活用できることを確認させる。

(ｳ)　板書計画

体に関するレポートを書こう

〈学習目標〉

友達のレポートやアドバイスを参考にして自分のレポートを見直そう。

評価の観点

○　構成や展開

・　序論・本論・結論

・　予想・調査・考え

・　調べたこと（事実）と自分の考えの書き分け

・　自分の経験

○　引用

・　内容に合った引用

・　出典の明記

○　表現や語句

・　誤字脱字、主述の関係

・　言いたいことが分かるか

○　その他

・　図やグラフの利用

〈まとめ〉

分かりやすく説得力のあるレポート

・　事実と自分の考えを分けて書く。

・　適切な引用を使い、根拠を明確にする。

・　自分の経験を踏まえた説明や具体例を挙げたり言い換えを使ったりする。

カ　「思考・判断・表現」の評価

(ｱ)　評価する内容と方法の概要

評価する内容は，次の２点である。

①　予想・調査・意見などの論理展開を意識してレポートを書いているか。

②　説得力をもたせるための引用や，自分の経験を踏まえたり分かりやすくするための言い換えを使ったりしてレポートを書いているか。

評価は，レポートの分析と友達の作品の評価と学習の振り返りを記入したワークシートで行う。

(ｲ)　学習内容を踏まえて設定した「判断基準」（別紙資料参照）

(ｳ)　単元の振り返り

①　レポートに対する友達からの評価

	友達からの良い評価	友達からのアドバイス
構成や論理展開	・　序論・本論・結論の構成で書くことができている。 ・　短い文章でも予想・調査・結果，考えの内容がよくまとめられている。 ・　分かりにくいところで「つまり」という言葉があり理解しやすかった。	・　序論で興味がそそられた。 ・　本論の部分は２段落に分けた方がいいと思う。 ・　自分の考えをもっとたくさん書いた方がいいと思う。 ・　調べた結果を基に自分の考えを書いた方がいい。
説得力や分かりやすさ	・　引用がきちんとされていて，細かい内容でもよく分かった。 ・　自分の経験が入っていて内容がよく分かった。 ・　難しい専門用語に振り仮名があって読みやすい。 ・　例が挙げられていて納得できた。	・　引用が言いたい内容とずれている。 ・　文末表現が同じ言葉になっている。 ・　言葉だけで説明しにくいものは，図を入れるといいと思う。 ・　難しい言葉の説明が欲しい。 ・　もっと具体的に書いた方が分かる。 ・　自分の経験を入れると，もっと分かりやすくなる。

② レポートの自己評価

	良い評価	今後気を付けたいところ
構成や論理展開	・ 三段落構成で書くことができた。 ・ テーマにきちんと合った内容が書けた。 ・ 事実と考えを分けて書けた。 ・ 予想から結果までまとめられた。 ・ 事実に基づいて自分の考えが書けた。	・ 本論の分量が多かった。 ・ 自分の考えが明確になっていなかった。 ・ 自分の考えが少なかった。 ・ 結論部分をもっと多く書いたほうがよかった。
説得力や分かりやすさ	・ 文章を引用して，参考文献も書くことができた。 ・ 図を使い，専門用語には《 》を付けて分かりやすくできた。 ・ 自分の経験を具体例として入れることができた。 ・ 大事なところには線を引いて分かりやすく工夫できた。	・ 引用がテーマや言いたいこととずれないように注意したい。 ・ 専門的な用語が多く，読む人には分かりづらかったので，絵や図などを工夫したい。 ・ 引用が少し多いから，自分の考えをもっと述べるようにしたい。 ・ 言い換えを効果的に使いたい。

(ｴ) 本時における補充・深化指導

① グループ活動時の補充・深化指導

グループ活動においては，「判断基準」をそのまま相互評価の観点として用いることで，自分の文章の良いところや改善点が明確になり補充指導や深化指導へつなげやすくなった。例えば，評価がなかなか書けない生徒に対しては，「このレポートは，この観点について書けていますか。書けていたら，その部分はどこなのか探してみよう。」などと，一つの観点ごとにレポートを評価させた。したがって，評価を受け取った本人は間接的に「判断基準」による教師の補充指導を受けたことになった。

また，評価を書いている場合でも，「引用ができている」，「～でよかった」という単純な評価から，「引用しているため，分かりやすい」，「～なので，イメージしやすい」など，踏み込んだ表現をさせることで，相互評価を通しての間接的な深化指導につなげた。

② 個人活動時の補充・深化指導

個人活動の場においては，友達からの良い点やアドバイスを基に補充・深化指導を行った。例えば，「自分の経験や具体例，言い換えなどの説明の工夫」について指摘があった場合は，その内容について模範的な文章表現をしている生徒の作品を紹介し，自分の作品と比べることで補充・深化指導につなげた。

３　生徒の作品

(1)　「弁論文を書こう」の作品と評価

ア　Ａ評価の作品

認知的不協和と悪口の関係

三年　○○　○○

皆さんは、悪口を言ったこと、もしくは言われたことがありますか。おそらく、両方とも経験したことがあるでしょう。（中略）なぜ人は悪口を言ってしまうのでしょう。

（中略）自分の心の中で悪魔と天使が葛藤を繰り広げている状態、これがまさに認知的不協和なのです。（中略）ではどうしたら、悪口を言わずにすむのでしょうか。

（中略）簡単にまとめると、悪口を言わず、作らず、受け止めずの三原則が揃えば、ストレスを減らせます。悪口を言いたくないけど、ストレスばかりたまるという認知的不協和から脱出できるのです。だから、僕は悪口の数を減らすべきだと思うのです。

テーマの選択や内容，自分の主張について視点に独自性がある。

序論・本論・結論の構成で書いている。

自分の主張を支える根拠が明確で，論理的に展開している。

イ　Ｂ評価の作品

頑張れ

三年　○○　○○

みなさんは、誰かを応援するとき、「頑張れ。」と言ったことがありますか。おそらく、ほとんどの人がこの言葉を使うと思います。

（中略）言っている側は、善意で行っていると思います。しかし、言われた側は、どうでしょうか。「私は精いっぱい頑張っているのに。」という気持ちをもっていたら、それはマイナスの言葉です。

どんな言葉でも、相手に自分の気持ちがきちんと伝わるような応援をしたいものです。

身近な出来事をテーマに設定している。

序論・本論・結論の構成で書いている。

自分の主張を支える根拠が自分の考えのみであったため，チームメイトへの取材など具体的な内容を取り入れる指導が考えられる。

主張を説明する部分に「どんな言葉を付け加えればよいか」など，自分独自の考えを盛り込む指導が考えられる。

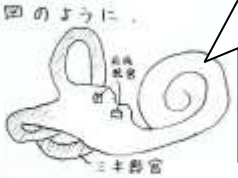
(2)　「体に関するレポートを書こう」の生徒作品と評価

人はなぜフラフラするのか？

鹿屋市立輝北中学校
3年（　　）

なぜ人は頭をぶつけたり、急に立ち上がったりするとフラフラするのか？
私たちの耳の中には、三半規管がある。体のバランスをとるための器官であるということは、知っていたが、どのようにバランスをとっているのかは分からない。私は、何かバランスをとるためのボールのようなものがあるのだと予想をたてた。バランスをとるためには、すべての方向に対応しなければならないと思ったからだ。
実際に調べてみると、予想とは全く違う答えがでてきた。

まず、三半規管とは、耳の奥にある半円形に曲がったうつの管のことで、やはり体のバランスをとっているところだった。しかし、バランスをとっている器官はもうひとつあったのだ。それは、前庭器官。下の図のように、三半規管と同じような場所にある。三半規管は体の回転を感じ、前庭器官は体の位置や動きを感じる役割を持っていた。



三半規管のしくみについて説明すると、うつの半規管の中にはゼリー状のリンパ液が入っており、人が回転すると、リンパ液も動き、それを細胞がキャッチして脳に伝わるというしくみになっている。
前庭器官も、細胞がキャッチするというところは同じだ。うつの耳石器というものが直角に並んでおり、人が動くと石がずれ、それを細胞がキャッチするというしくみだ。
ちなみに、人がずっと回転するとフラフラしてしまうのは、リンパ液に原因があった。コーヒーカップなどで目が回ると、止まったあとも、真っすぐに歩けない。それは、「リンパ液は急に止まることはできない。だから、回るのをやめても、目は回りっぱなし。」という理由だった。

私が今回三半規管について調べて一番驚いたことは、バランスをとっているのは三半規管だけではなかったということだ。めまいの原因もこのうつの器官だった。今までほとんど働きが分からなかったけれど、私たちにとってとっても大きな役割を担っていることが分かったので、今回学んだことを忘れないでおきたい。

参考文献　徐田群三郎『ビクタートニー からだのふしぎ 耳鼻口のとのはたらき』P.12～13

既習の内容から，発展させたテーマを設定し，その理由を書いている。

予想や調べた内容を分かりやすく述べながら，展開している。

言葉だけでは説明しにくい部分は，図を使って表している。

自分の経験を具体例として挙げている。

予想に対しての答えと自分の考えを述べ，全体をまとめている。

説明に必要な部分を適切に引用し，出典を明記している。

〈生徒の変容（弁論文でＢ評価の生徒作品）〉

既習単元〈弁論文〉からの変容

☆　既習単元　自分の考えの根拠は示すことができたが，説得力をもたせる表現が必要である。

本単元　判断基準Ｂイ　：　引用部分を中心に主張を支える根拠を明確に示しながら説得力をもたせ，参考文献を示している。

判断基準Ｂウ　：　読み手が実感できるような自分の経験を踏まえた説明を加えている。

☆　既習単元　自分なりの考えをもっているが，全体として論理性が弱い。

本単元　判断基準Ｂア　：　既知の事実を基に自分独自の視点で詳しい予想を立て，検証しながら結論へ結び付けている。

判断基準Ｂエ　：　新たな発見について予想と結果を比較することで自分の考えを分かりやすく説明している。

４　研究の成果と今後の課題

(1)　研究の成果

○　これまで学習してきた主張文やレポート，引用を使った文章を踏まえた学習を行うことで，重点的に指導すべき事項が見えてきたり，生徒の定着の度合いを知ることができたりした。

○　「読むこと」と「書くこと」を関連付け，レポートを書くことを見据えた授業では，生徒に「読み手にとって分かりやすい文章には，どのような工夫がされているか」という視点をもたせ，それを意識して取り組ませることができた。

○　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」を設定することで，評価するポイントがより焦点化され，これまでに比べ，具体的に補充・深化指導することができた。また，それによって次の学習でのポイントも見付けやすくなった。

○　今回の「レポートを書こう」の学習においては，理科の自由研究等における「仮説・実験・考察」といった流れが十分に定着しており，論理展開がスムーズに進む生徒もいた。また，今回の学習を経て，理科や社会においてレポートを書く際にも役立つことが考えられる。

(2)　今後の課題

○　相互評価における評価カードには，付箋の工夫による評価の可視化等，改善の余地がある。

○　今後は実験や観察，検証によって自分自身で結果を導き出す，より実践的なレポートにも取り組ませる必要がある。

○　次の説明的な文章「『ありがとう』と言わない重さ」との関連も踏まえた指導計画や「判断基準」を構築する必要がある。

事　例　３

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成
～第２学年「読むこと」（現代文Ｂ，古典Ｂ）の実践を通して～

大　口　高　等　学　校
教　諭　　立和名　猛

１　本実践の概要

学習指導要領が改訂され，言語活動を通して「思考力・判断力・表現力」を育成することが重要な課題となっている。本実践では，「思考力・判断力・表現力」を育成することを目的として，その実現のために学習内容の関連を踏まえて指導することを図った。

「学習内容の関連」として，今回は学習内容を「科目間」で関連付けて指導する在り方を実践した。「思考力・判断力・表現力」の育成という目的を達成するために，「科目間」においてどのような学習内容を設定し評価規準や「判断基準」を具体化していくか。この系統的・段階的な在り方が課題であった。

本実践のねらいは「古典Ｂ」において作文を書くという活動を通して「思考力・判断力・表現力」を育成することである。その取組を充実させるために「古典Ｂ」の学習に先立ちその内容に関連させた「現代文Ｂ」の指導を行うことにした。まず「現代文Ｂ」において自分の考えを深めるために作文を書く活動を行う。次に，その成果を生かして「古典Ｂ」でも同様の活動を取り入れるという指導展開である。「古典Ｂ」はその内容理解の難しさもあって生徒自身が「書くこと」を通して自分の考えを深めるのは容易ではないことが多い。よって，その前段階的な準備も意図して「現代文Ｂ」において作文を書かせたのである。その際，作文の形式的な書き方を「現代文Ｂ」も「古典Ｂ」も同様の枠組みにして，系統的な指導が実現できるように工夫した。

「現代文Ｂ」の教材は「山月記」，「古典Ｂ」は「徒然草」の第93段である。「現代文Ｂ」では「山月記」における「臆病な自尊心」に着目し李徴の心情や生き方を捉え，それをテーマとした「作文」を書く。「古典Ｂ」では「徒然草」の第93段に描かれている「無常」を捉え，それをテーマとして作文を書く。いずれも800字の作文とし，４段落構成で，各200字を目安とする。各段落の役割を明確にして，共通の形式となるように工夫した。第１段落は「本文の概要」，第２段落は「原因と現代との比較」，第３段落は「本文における生き方と現代人の生き方」，第４段落は「わたしの生き方」という役割である。

なお，学習指導要領との関連としては，「古典Ｂ」の指導事項ウ「古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること」と「現代文Ｂ」の指導事項ウ「文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること」を扱うこととした。言語活動例に関しては，「現代文Ｂ」の「ウ　伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字，音声，画像などの特色をとらえて，目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること」（単元を貫く言語活動）を用いた。

このように，本実践では，前段階として「現代文Ｂ」で作文に取り組ませ，その上で「古典Ｂ」において自分の考えを深める契機となる作文を書く活動へと展開できるように工夫した。「現代文Ｂ」は１学期で作文を書かせ，「古典Ｂ」は２学期に書かせている。この系統的な指導を通して，「思考

力・判断力・表現力」の育成はより充実するのではないかと想定して本実践に取り組んでいる。

２　指導と評価の計画（概要）　（「現代文Ｂ」と「古典Ｂ」の比較）

		現代文Ｂ（既習単元）	古典Ｂ（本単元）
1	単元名	「山月記」を読み深める　～自分を見つめる～	「徒然草」に学ぶ　～生と死を見つめる～
2	教材	「山月記」中島敦	「徒然草」（第93段）兼好法師
3	実施	１学期７月　10時間	２学期９月　８時間
4	指導事項（学習指導要領）	ウ　文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること	ウ　古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること
5	言語活動	作文（800字4段落）	作文（800字４段落）
6	単元の目標と評価規準		
(1)	関心・意欲・態度	(ｱ) テーマについて積極的に考える。 ①　他の生徒の考えを積極的に理解しようとしている。	(ｱ) テーマについて積極的に考える。 ①　他の生徒の考えを積極的に理解しようとしている。
(2)	読む能力	(ｲ) 心情を的確に捉え，自分の考えを深める。 ①　李徴の心情を的確に捉えている。 ②　李徴の心情と現代人や自分自身とを比較しながら自分の考えを深めている。	(ｲ) 内容を的確に捉え，自分の考えを豊かにする。 ①　本文の「無常」について的確に捉えている。 ②　本文の「無常」と現代人や自分自身とを比較しながら自分の考えを深めている。
(3)	知識・理解	(ｳ) 語句の意味を的確に理解する。 ①　語句の意味を的確に理解している。	(ｳ) 文法事項や歴史的背景を理解する。 ①　文法事項や歴史的背景を理解している。
7	「判断基準」の具体例		
		現代文Ｂ（既習単元）	古典Ｂ（本単元）
(1)	評価規準	読む能力②（「思考・判断・表現」） 李徴の心情と現代人や自分自身の心情とを比較しながら自分の考えを深めている。	読む能力②（「思考・判断・表現」） 本文の「無常観」と現代人や自分自身の「死生観」とを比較しながら自分の考えを深めている。
(2)	評価の対象	思考，判断に基づく表現内容 ○　生徒が作成した作文（800字・４段落構成）	思考，判断に基づく表現内容 ○　生徒が作成した作文（800字・４段落構成）
(3)	判断の要素	ア　「山月記」の心情の的確な理解（第１段落） イ　心情の生じた原因に関する表現（第２段落） ウ　李徴と現代人の生き方に関する表現（第３段落） エ　自分の生き方に関する表現（第４段落）	ア　「徒然草」の考え方の的確な理解（第１段落） イ　考え方の原因（背景）に関する表現（第２段落） ウ　古人と現代人の生き方に関する表現（第３段落） エ　自分の生き方に関する表現（第４段落）
8	判断基準Ｂ	ア　「山月記」における「臆病な自尊心，尊大な羞恥心」の意味を的確に捉えている。 イ　「臆病な自尊心」を抱く原因と，それに通じる現代人の心情について適切に表現している。 ウ　李徴の「臆病な自尊心」に対する向き合い方と現代人の向き合い方について適切に表現している。 エ　自分の生き方について表現しまとめている。	ア　「徒然草」における「無常」と「生を愛す」の意味を的確に捉えている。 イ　「徒然草」執筆時の時代背景と，現代の「死」に対する考え方について適切に表現している。 ウ　「徒然草」に表現されている生き方と，現代人の生き方を適切に表現している。 エ　自分の生き方について表現しまとめている。

３　対象生徒の実態　　（大口高等学校２年生32名）

学習に対する意欲・態度ともにおおむねよい状況である。ただし，意見を言い合ったり話し合ったりする取組については消極的である。

古典については，文法や単語といった基本的な理解は身に付きつつあるものの，当時の人々の「ものの見方・感じ方・考え方」を捉え，自分の考えを深めていくといった側面については不十分である。

４　指導と評価の計画

(1)　指導計画（「古典Ｂ」平成26年９月実施）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	・　単元の目標を理解する。 ・　「徒然草」第93段の前半の内容を理解する。	・　800字の作文を書き自分の考えを深めさせる。 ・　「徒然草」（第93段）の前半部分に描かれている内容を捉えさせる。　（ワークシート①）	【読む能力①】 （ワークシートの点検）
2	・　「徒然草」における「生と死」を捉える。 ・　「徒然草」第93段の後半の内容を理解する。	・　本文の内容を「生と死」や「無常」といった観点から捉える。当時の時代背景を確認する。 ・　現代に生きる自分たちの「死」について考える。　（ワークシート②）	【読む能力①】 （ワークシートの点検） 【知識・理解①】 （ワークシートの点検）
3	・　「徒然草」第93段の後半の内容を理解する。	・　「人，死を憎まば，生を愛すべし。存命の喜び，日々に楽しまざらんや」といった文言を中心に，「無常」（「死」）の自覚の上に「生」を捉えていることを理解させる。 ・　本文に描かれている生き方について捉えさせる。 ・　現代人や自分の生き方について考えさせる。 （ワークシート③）	【読む能力①】 （ワークシートの点検）
4 5	・　作文の構想を立てる。	・　４段落構成の各段落の役割を理解させる。 ・　これまでのワークシートを用いながら，構成シートをまとめさせる。 ・　「山月記」で書いた生徒作品例を読ませ，参考にさせる。　（構成シート）	【読む能力②】 （構成シートの点検）
6 7	・　800字の作文を書く。	・　構成シートを基に800字の作文を書かせる。（原稿用紙） ・　生徒の作文を基に，深化・補充指導を行う。	【読む能力②】 （作文の点検）
8	・　他の生徒の作文を読み合うとともに，これまでの活動を振り返る。	・　生徒の考えが多様であることを知り，自分の考えを広げ，深めさせる。 （振り返りシート）	【関心・意欲・態度①】 （振り返りシートの点検）（行動の観察）

(2)　学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定

現代文Ｂ（既習単元）	古典Ｂ（本単元）
単元名：「山月記」を読み深める　～自分を見つめる～ 教材名：「山月記」中島敦	単元名：「徒然草」に学ぶ　～生と死を見つめる～ 教材名：「徒然草」（第93段）兼好法師
評価規準	
○　李徴の心情と現代人や自分自身の心情とを比較しながら自分の考えを深めている。	○　本文の「無常観」と現代人や自分自身の「死生観」とを比較しながら自分の考えを深めている。
評価時期及び評価の対象	
○　展開の段階の最後（９／１０時） ○　800字程度の作文（４段落構成で各200字程度）	○　展開の段階の最後（６・７／８時） ○　800字程度の作文（４段落構成で各200字程度）
判断の要素	
ア　李徴の心情の的確な理解（第１段落） イ　李徴の心情の生じた原因に関する表現（第２段落） ウ　李徴と現代人の生き方に関する表現（第３段落） エ　自分の生き方に関する表現（第４段落）	ア　古人の考え方の的確な理解（第１段落） イ　古人の考え方の生じた原因に関する表現（第２段落） ウ　古人と現代人の生き方に関する表現（第３段落） エ　自分の生き方に関する表現（第４段落）
判断基準Ｂ	
ア　「山月記」における「臆病な自尊心，尊大な羞恥心」の意味を的確に捉えている。 イ　李徴の「臆病な自尊心」を抱く原因と，それに通じる現代人の心情について適切に表現している。 ウ　李徴の「臆病な自尊心」に対する向き合い方と，現代人の向き合い方について適切に表現している。 エ　自分の生き方について表現しまとめている。	ア　「徒然草」における「無常」と「生を愛す」の意味を的確に捉えている。 イ　「徒然草」執筆時の時代背景と，現代人の「死」に対する考え方について適切に表現している。 ウ　「徒然草」に表現されている生き方と，現代人の生き方を適切に表現している。 エ　自分の生き方について表現しまとめている。
【予想される生徒の表現例】 李徴は自分が虎になってしまった理由を「臆病な自尊心，尊大な羞恥心」のためだとしている。この「臆病な自尊心」と「尊大な羞恥心」のいずれも自分の中に「優越感」と「劣等感」という両極の心情があったことを示しているとも言える。そのために，李徴は，才能がないという「劣等感」のために「刻苦して磨こう」とせず，また一方では，才能があるという「優越感」のために「碌々として瓦に伍する」こともできなかったと言えよう。**ア** 「臆病な自尊心」の原因は何か。李徴は幼いころから「郷党の鬼才」と呼ばれるほどの才能にあふれていた。しかし，その能力の高さゆえにかえって傷つくのを恐れたために「臆病な自尊心」が強まったのではないか。つまり，彼はプライドを守ることに執着し，それによってかえって挫折してしまったのだ。この心情は現代人においても，同様に感じるものであろう。傷つくのを恐れるという心情は，むしろ現代人の方が強いかもしれない。**イ** では，この「臆病な自尊心」にどう向き合えばよいか。虎となった李徴は，強い後悔を示しながらも「自嘲癖」から抜け出すことはできず，最後まで自尊心の呪縛から逃れることはできなかった。我々はどうか。競争社会と呼ばれて久しい現代においては，勝ち抜くことをよしとして「プライド」こそもつべきものだと叫ぶ人もいる。このような社会の構図の中で，自尊心はむしろ周囲から焚きつけられていると言えるのではないか。**ウ** この「自尊心」と私自身はどう向き合いどう生きていけばよいか。私は「自尊心」は諸刃の剣だと思う。それが強くなりすぎると李徴のように成長を妨げることになりかねない。しかし，プライドがあるからこそ頑張ろうという気持ちになるのも事実だ。傷つくことを怖がり，自分の能力や可能性を無駄にはしたくない。本当の「自尊心」は決して傷つくことを恐れることではないだろう。私は将来を見つめ，今できることを懸命にやっていきたい。**エ**	**【予想される生徒の表現例】** 「徒然草」（第93段）の前半では，牛が突然亡くなったことをきっかけに，死は「はからざる」ものとして突然訪れることが書かれている。これが人の命にとっての「無常」である。それゆえ，「一日の命，万金より重し」と言う。後半では，「無常」だからこそ「生を愛すべし」「存命の喜び，日々に楽しまざらんや」という生き方が必要だと言う。しかし，普通の人々は「死の近き事」を忘れて「存命の喜び」よりも「外の楽しみ」を求める。**ア** こういった「無常」という考え方が生じるのはなぜか。その原因として「徒然草」が執筆された時代は政治が乱れ，飢饉等によって人々の生活は絶えず不安な状態にあったことが挙げられる。全ては「無常」であり人の命も不確かなものだと感じやすい時代だった。一方，現代の状況はどうか。死はいつ訪れるか分からないという事実は現代でも変わることはない。災害や事故，病気といった不慮の出来事によって人の命は奪われるものだ。**イ** では，どう生きるべきか。「徒然草」では「存命の喜び」を「日々に楽しむ」ことが大切だと言う。このことは，「世捨て人」となって「外の楽しみ」ではなく「生」そのものを楽しもうとした兼好法師の生き方にも通じる。一方，現代人はどうか。金銭を求めたり，趣味に励んだり，様々な技術を磨くことなど，人それぞれに異なるだろう。大切なことは，今できることの可能性を生きることであり，それが現代人の「生を愛す」ことなのではないか。**ウ** 谷川俊太郎の「生きる」という詩に「生きるということ／それはすべての美しいものに出会うということ」という一節がある。私は今，美術部に属している。油絵を描くこと。自分の思いをカンバスにぶつけて，自分にも予測できなかった「美しさ」にたどりつきたい。様々な作品を観賞したい。それが今の夢であり「生を愛す」ことだと思っている。それが自分の「生」を最大に発揮することにつながっていくのではないだろうか。**エ**

(3)　授業の実際

ア　前単元について　「現代文Ｂ」（「山月記」を読み深める）（10時間）

本単元に先立ち，小説「山月記」に取り組ませた。主人公の心情に着目させ自分自身の考えを深めさせるのにふさわしい教材である。李徴の心情や心理の理解を中心に指導した。特に李徴の「臆病な自尊心と，尊大な羞恥心」に着目させた。

読解指導の後，「構成シート」（**図１**）に取り組ませた。今回は，800字の作文を書くことを伝え，４段落を各200字前後で書くように指示した。各段落には役割があることを伝えた。

当初，生徒は書くことを難しいと感じているようだったため，段落の役割や本文の意味について，生徒に直接説明したり，これまでのワークシートを再確認させたりして指導していった。本文の意味を曖昧に理解していた生徒も，構成シートに取り組むことで理解を深めることができていた。

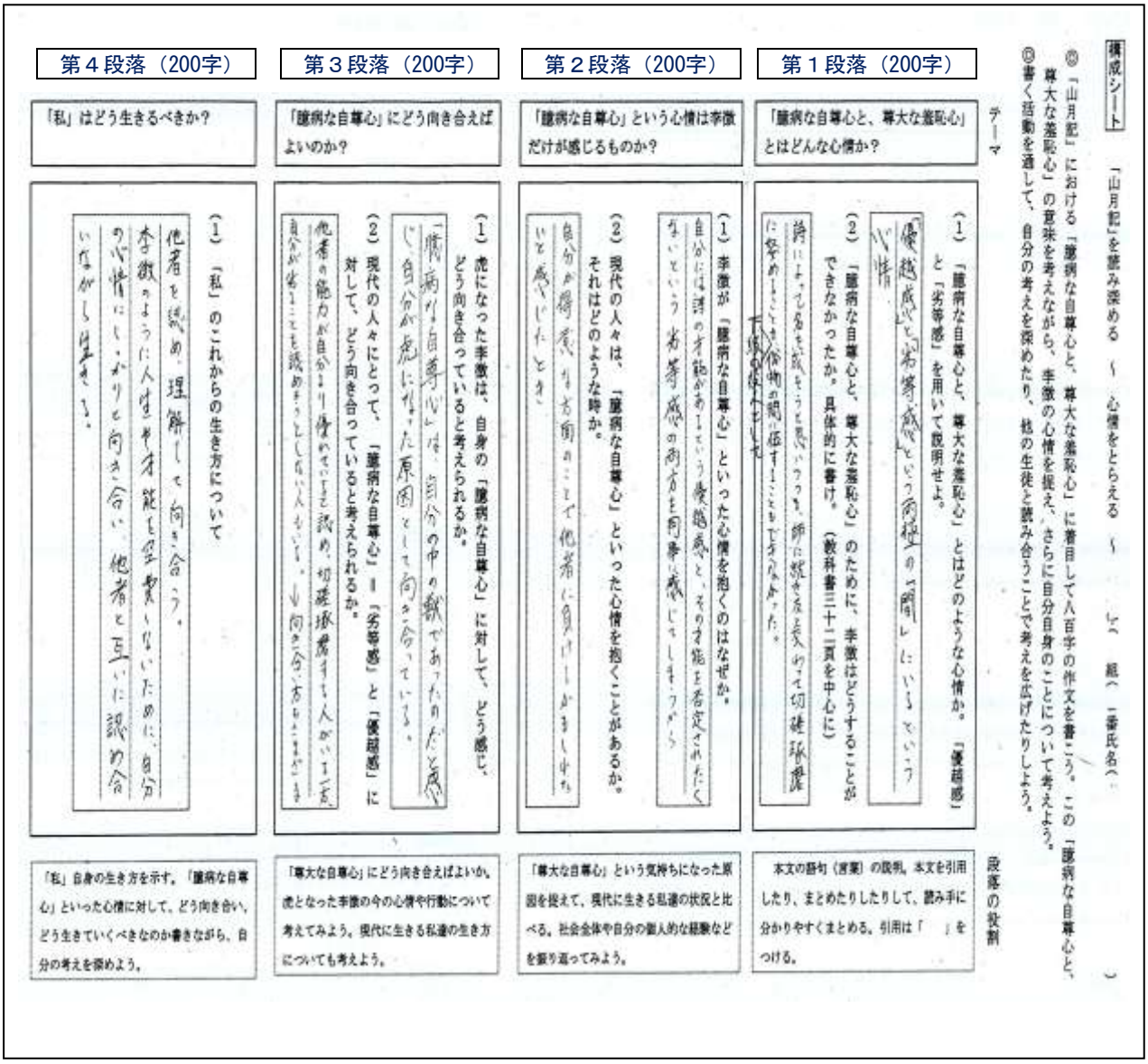


図１　構成シート（「山月記」を読み深める）

生徒たちは，「構成シート」で整理することができていれば，原稿用紙への記述はそれほど苦ではないようであり，全員が作文に取り組んでいた。補充指導としては主に本文の内容理解が不十分な生徒に対して行った。深化指導としては，比較的よく書けている二人の生徒の例（**図２**）を印刷して生徒に読ませることで自分の作文を振り返らせた。

図２　生徒作品例（「山月記」を読み深める）

イ　本単元について　「古典Ｂ」「徒然草」第93段　（７時間）

(ｱ)　教材「徒然草」第93段について

「徒然草」（第93段）は「無常」を主題とした説話的な章段である。命は「はからざる」ものであり，いつ死が訪れるかは予想できない。命は「萬金よりも重し」なのであり，だからこそ「人，死を憎まば，生を愛すべし。存命の喜び，日々に楽しまざらんや」という。単に「無常」が述べられているのではなく，いかに生きるべきかという点まで述べられている。

本校の２年生にとってこの章段はやや難易度が高いと予想された。しかし，高校生であっても決して無視できない「死」という問題や，それがいつ訪れるか分からないという「無常」の考え方を高校生が自分の問題として捉え，そしてどう生きていくかということを考えるきっかけとするには適した教材である。普段は考えることの少ない「死」や「無常」という考え方だ

からこそ，古人の考え方を通して自分の考えを深化拡充し，「ものの見方，感じ方，考え方を豊かに」する教材として適しているのではないかと考えたのである。無論，「無常」という概念を理解しておくことは古典学習において大切なことである。よって，難易度がやや高い面は，ワークシートで補充しながら生徒の理解が図られるように工夫することとして，本章段を教材とした。

（前半）　「牛を売る者あり。買ふ人，明日その値をやりて牛を取らんといふ。夜の間に牛死ぬ。買はんとする人に利あり，売らんとする人に損あり」と語る人あり。
　これを聞きて，傍なる者の曰く，「牛の主，まことに損ありといへども，又大なる利あり。その故は，生あるもの，死の近き事を知らざること，牛，既に然なり。人，また同じ。はからざるに牛は死し，計らざるに主は存せり。一日の命，萬金よりも重し。牛の値，鵝毛よりも軽し。萬金を得て一銭を失はん人，損ありといふべからず」と言ふに，皆人嘲りて，「その理は牛の主に限るべからず」と言ふ。
（後半）　また云はく，「されば，人，死を憎まば，生を愛すべし。存命の喜び，日々に楽しまざらんや。愚かなる人，この楽しみを忘れて，いたづがはしく外の楽しみを求め，この財を忘れて，危く他の財を貪るには，志，満つる事なし。生ける間生を楽しまずして，死に臨みて死を恐れば，この理あるべからず。人みな生を楽しまざるは，死を恐れざる故なり。死を恐れざるにはあらず，死の近き事を忘るゝなり。もしまた，生死の相にあづからずといはば，實の理を得たりといふべし。」といふに，人，いよいよ嘲る。

(ｲ)　第93段の読解（前半）（１時間目）

まず，第93段の前半部分の読解を行った。前半の現代語訳をした後，ワークシート①（**図３**）を通して内容理解を図った。「傍へなる者」と「皆人」という対比的な価値観をもつ登場人物の考え方の相違点を確認した。

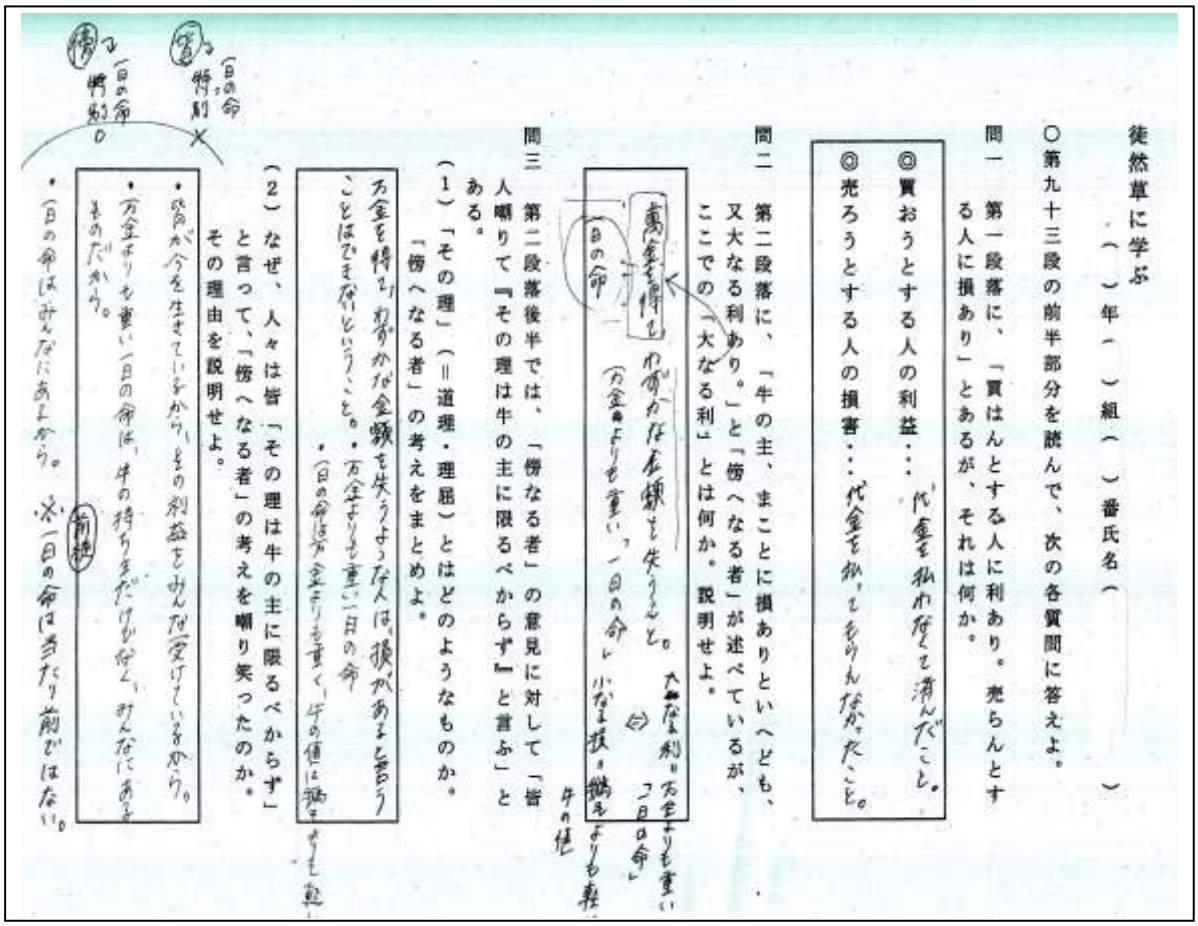

徒然草に学ぶ
（　）年（　）組（　）番氏名（　　）
○第九十三段の前半部分を読んで、次の各質問に答えよ。
問一　第一段落に、「買はんとする人に利あり。売らんとする人に損あり」とあるが、それは何か。
◎買おうとする人の利益…代金を払わなくて済んだこと。
◎売ろうとする人の損害…代金を払ってもらえなかったこと。
問二　第二段落に、「牛の主、まことに損ありといへども、又大なる利あり。」と「傍へなる者」が述べているが、ここでの「大なる利」とは何か。説明せよ。
問三　第二段落後半では、「傍なる者」の意見に対して「皆人嘲りて『その理は牛の主に限るべからず』と言ふ」とある。
（1）「その理」（＝道理・理屈）とはどのようなものか。
「傍へなる者」の考えをまとめよ。
（2）なぜ、人々は皆「その理は牛の主に限るべからず」と言って、「傍へなる者」の考えを嘲り笑ったのか。その理由を説明せよ。

図３　ワークシート①

(ｳ)　「無常」の理解と第93段の読解（後半）（２時間目）

２時間目では「一日の命」の価値や当時の人々の状況についてワークシート②（**図４**）を用いて捉えさせた。「現代の人々にとって生と死の問題を考えるのはどのような時か」といった問い掛けや「自分自身が生と死を考えるのはどのような時であったか」という問い掛けもしている。

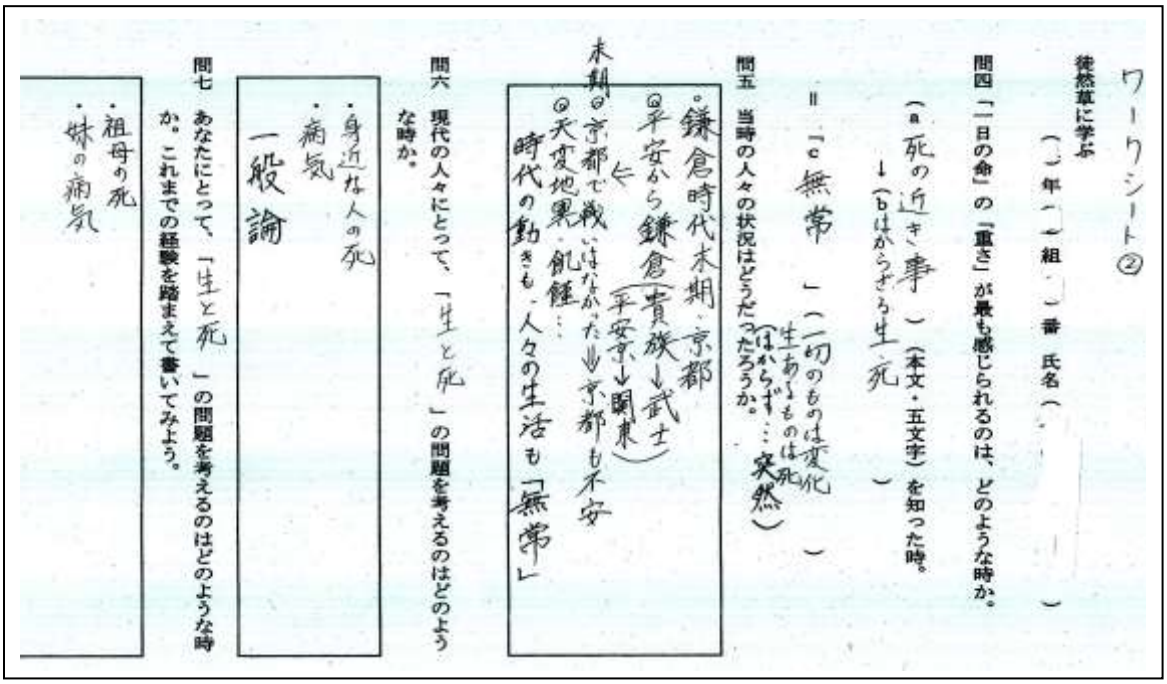


図４　ワークシート②

(ｴ)　第93段後半の読解（後半）（３時間目）

３時間目はワークシート③（**図５**）を用いて，古人と現代人の生き方について考えさせた。

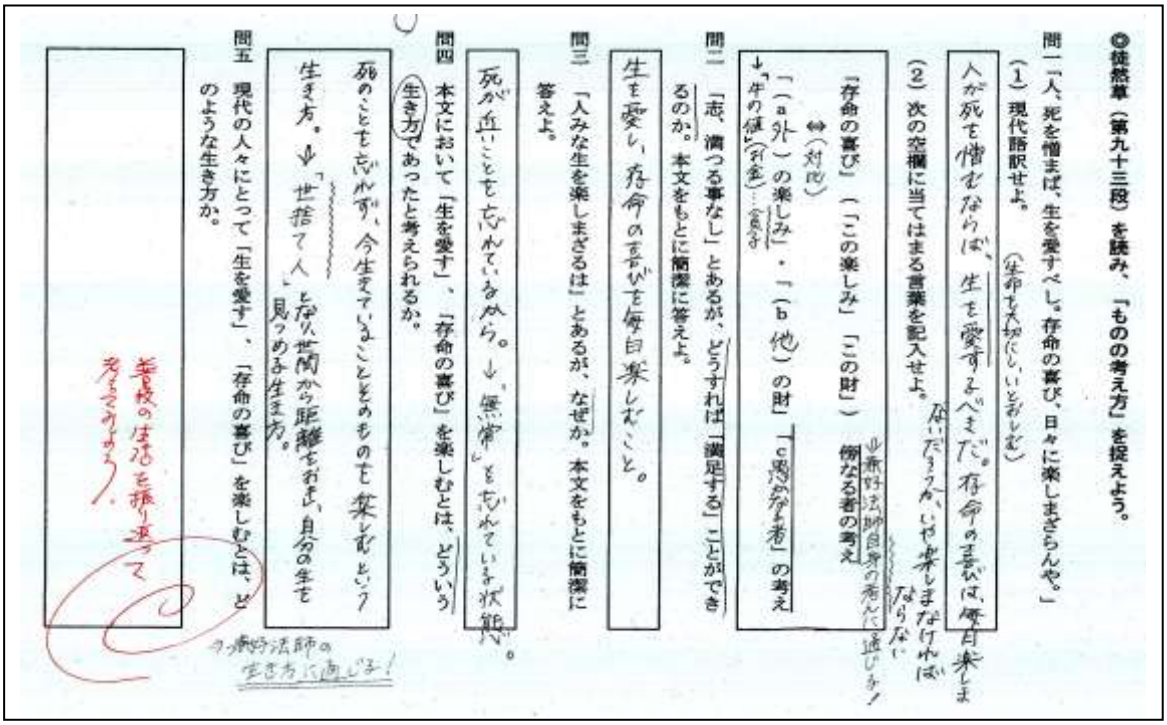


図５　ワークシート③

(ｵ)　作文の構成をまとめる（第４，５時）

これまでの学習を踏まえて構成シート（**図６**）に取り組ませた。テーマは「第93段に表れている無常という考え方を捉えた上で，現代に生きる『私』がどのように生きるべきなのか」である。前単元と同様の形式であることを伝えたため円滑に取り組むことができていた。しかし，取組が進まない生徒も２割程度いた。

その生徒たちには，前回と同様に，直接説明したりワークシートを振り返らせたりして何をどのように書けばよいか助言して記述を促した。具体的には，第１段落はワークシート①②③を確認するようにさせた。「本文の概要」であるため，本文を引用させながら，前半部分で書いている内容は「はからざる死」が中心であり，後半は「生を愛すべし」という生き方であるということを説明した。第２段落はワークシート②，第３段落はワークシート③を参考にするとよいことを伝えた。ワークシートは段落の内容と関連するように指導者が作ったものであったため，指導助言の後は何を書けばよいのか理解できていたようだ。最終的には，全員が構成シートを書き終えることができた。

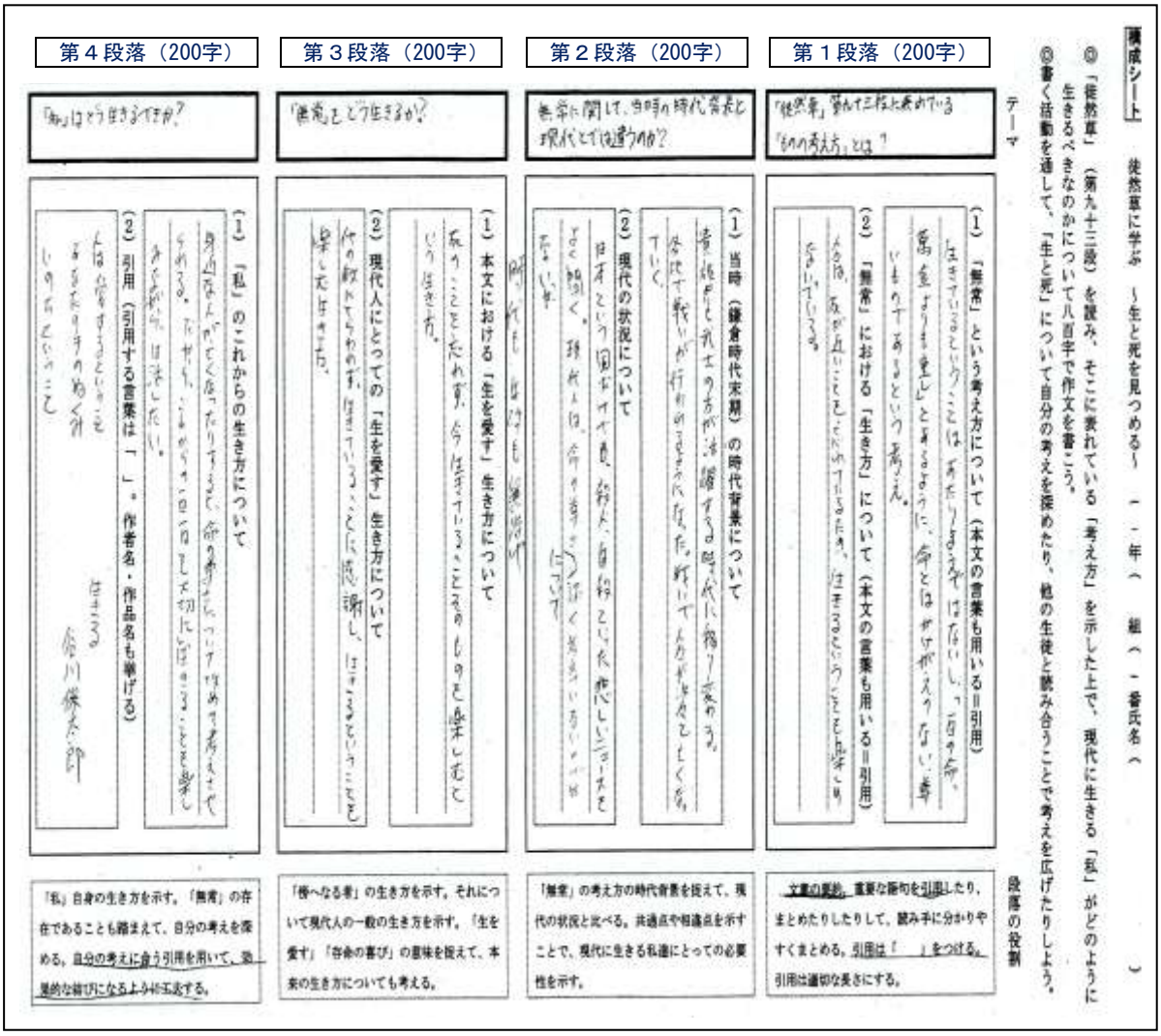


図６　構成シート（「徒然草」に学ぶ）

(ｶ)　作文の記述（原稿用紙）（第５，６時）

構成シートから原稿用紙に記述させた。構成シートで内容を整理させていたため，原稿用紙への記述は良好であり，熱心に取り組んでいた。前単元で用いた生徒作品例を再配付して，構成シートから文章にする際のポイントを再度確認させたのも効果的であったように思われる。最終的には，全員が記述し終えることができた。

(ｷ)　「判断基準」に基づく「思考・判断・表現」の指導と評価

第７時には，補充・深化指導を行った。次は，前時に書かせた生徒の作文に，「判断の要素」が盛り込まれているかを見取ったものである。

「徒然草」における「無常」とは一切のものは変化し，生あるものは必ず死ぬという考え方であり，「はからざるに牛は死し，計らざるに生は存せり。」とあるように，動物も人も自分の死を予期することはできない。一日の命は決して当たり前ではなく，だからこそ一日の命は万金よりも重いのである。そのため「無常」において死を憎むならば，生を愛し存命して命のある毎日を楽しまなければならない。**ア**

「徒然草」が記された当時の京都での時代背景には天変地異や飢饉，また戦の絶えなかった京都も安全ではなくなり，時代の動きも人々の生活も「無常」であった。当時と現代とを比べると，当時の人々は自分の死が近いことを知った時に「無常」について考え，現代の人々は身近な人が死んだ時などに「無常」について考える。しかし，当時と現代では時代背景が大きく変わり，現代は戦もなく飢饉もないため，普段の生活の中で「無常」について考える機会が少ないと思われる。今の時代だからこそもっと多くの人が「無常」について考えるべきだと私は思う。**イ**

「徒然草」において，生を愛す生き方とは，死のことを忘れず今生きていることそのものを楽しむという生き方と考えられる。現代人にとっても，今，何不自由なく暮らせていることを当たり前と思わずに，一日一日を大切に，そして楽しんで生きるべきだと私は思った。**ウ**

「徒然草」という作品を読んで，私は現代ではあまり考えることのない「生と死」そして「無常」について考えながら生活していこうと思った。また，瀬戸内寂聴の言葉に「どんなに好きでも最後は別れるんです。どちらかが先に死にます。人に逢うということは必ず別れるということです。別れるために逢うんです。だから逢った人が大切なのです。」とあり，人との別れは予測できないが，だからこそ私は出逢った人を大切にしていこうと思った。**エ**

「判断の要素」**ア**～**エ**のうち，**エ**に具体性が不足しているので，Ｃ状況と判断できる。

その後，**エ**の表現を手掛かりにして，「具体的にどのようにすることが出逢った人を大切にすることになると考えますか。」と発問して補充指導を行った。発問に対して思考・判断し，「友達同士で困っている時などに悩みが和らぐように励まし合いたい。そのためには，自分を見つめて人を思いやる心を高めていこうと考える。」と表現することができた。この時点でＢ状況であると判断することができた。

さらに，「人生全体を通して『生き方』を考えた場合，将来社会人としてどのように他者を大切にすることが『存命の喜び』になると考えますか。」という発問をして，深化指導を行った。生徒は「将来どのような仕事に就いても，周囲の仲間とコミュニケーションをとり，お互いのできないことを補い合って社会に貢献できたら『存命の喜び』になると考える。そのためには，自分のできることを身に付けていこうと考える。」と表現した。この時点でＡ状況とみなすことができると判断した。

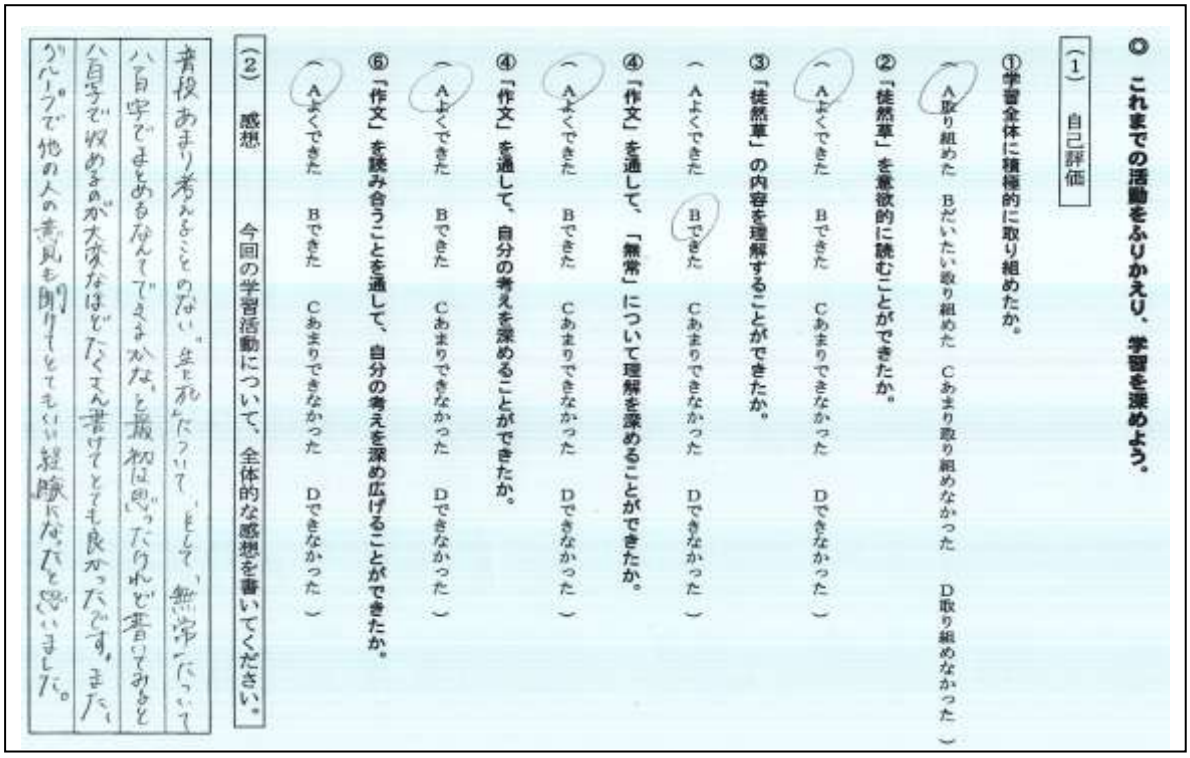
(ｸ)　他の生徒の意見文を読み，本文の理解を深めるとともに自分の考えを広げる（７時間目）

最後のまとめとして，他の生徒の作文を読ませ，相互評価・自己評価をさせた。４人のグループ学習（**写真**）とした。

写真　グループ学習の様子

相互評価では，各段落の役割を観点とした評価と感想・コメントに加えて，原稿用紙に直接付箋紙を貼らせた。良い点とアドバイスする点を記述しその箇所に貼らせた。

自己評価では，学習全体の取り組み状況，「徒然草」の読解に関すること，古人の「ものの考え方」に関すること，自分の考えの深まりや広がりに関することについて振り返らせた（**図７**）。生徒の自己評価から捉えると，学習活動に達成感をもてていることが分かる。本文そのものが難しく内容の理解は容易ではなかったが，作文を書くことによってより理解が深まったという記述や，他の生徒が様々な考えを示しているといった感想を書く生徒が多かった。



◎　これまでの活動をふりかえり、学習を深めよう。

（1）　自己評価

①学習全体に積極的に取り組めたか。
（A取り組めた　Bだいたい取り組めた　Cあまり取り組めなかった　D取り組めなかった）

②「徒然草」を意欲的に読むことができたか。
（Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった　Dできなかった）

③「徒然草」の内容を理解することができたか。
（Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった　Dできなかった）

④「作文」を通して、「無常」について理解を深めることができたか。
（Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった　Dできなかった）

④「作文」を通して、自分の考えを深めることができたか。
（Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった　Dできなかった）

⑤「作文」を読み合うことを通して、自分の考えを深め広げることができたか。
（Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった　Dできなかった）

（2）　感想　今回の学習活動について、全体的な感想を書いてください。

普段あまり考えることのない"生死"について、"無常"について八百字でまとめるなんてできるかな、と最初は思ったりもしたけど書いてみると八百字で収めるのが大変なほどたくさん書けてとても良かったです。また、グループで他の人の意見も聞けてとてもいい経験になったと思いました。

図７　振り返りシート

５　成果と課題

○　「現代文Ｂ」と「古典Ｂ」の「読むこと」の学習内容を関連付けることで，「判断の要素」をそれぞれの段落に位置付けた作文を書かせることができ，さらに，その作文を評価の対象として指導することができた。

△　「読むこと」の単元において，生徒が既に身に付けている書く能力を活用させる指導を，より一層充実する必要がある。